



八江林名品図巻
五



ル 4
3643
5



門 凡 4
號 3643
卷 5

八江秋名所圖画五之卷

目錄秋之部下

龍昌院	同圖	妙雲院	心蓮院	蓮華寺
妙香院	妙孝寺	常念寺	同圖	渡口
二江夜雨	法藏寺	弘法寺	同圖	納涼島
弘法寺川	海潮寺	新橋畵	海潮寺畵	
護念寺	妙性寺	鶴林寺	同圖	教安寺
海岸寺	無藏院	亨德寺	同圖	本行寺
保福寺	同圖	粟島明神圖	西久寺	

昭和廿三年
二月二十日
購求

妙元寺 淨國寺 西生寺 万福寺 泉福寺

松巖寺 住吉神社 同園 同祭禮畵

濱崎渡場園 魚迫場同園 御船藏園

獵人町同畵 款津江暮雪 札場畵 諸町盆踊園

龍福寺同園 稱名院 吉祥密院同畵 二森荒神

同園 辨天橋同園 善福寺 天王社 同園

市杵島明神社

以上目錄陸拾肆條

八江萩名所圖画五之卷

木梨恒充 著述

秋之部下 山縣篤藏 補正

金沙山龍昌院 鍛冶屋町筋より米屋町の北詰よりあり京

師の清浄華院に属し萩浄家三箇寺の其一として一派の觸

頭より本尊阿彌陀如来立像御長五寸二分 惠心僧都の作として開山

を専蓮社稱譽是休上人一道大和尚と云雲州熊谷の産添原氏あり元和九年に寂す

相傳ふ當寺ハ慶長九年二丸様兄五三郎右衛門元良の女弟与周慶快樂院と云 御卒去

みより一字を御建立ありて周慶寺と号し後寛文四年山口

島山西方寺を改め周慶寺と号し當寺ハ龍昌院殿の御菩

提所とせられて寺号をも改められり

大庫裏 韋駄天を安ん 長二尺五寸毎年正月二日拘子舞といふものを執行す是ハ周慶寺時代の古事にて鰐

口拘子といふものを持て舞ふを吉例なりといふこの鰐口拘子ハ寺の重宝として年毎の正月一度これを出す

本門 此門ハ伏見の御屋敷の御門を引とりて世俗を青貝門といふむろハ青貝にて模様にてありとてそ按るは伏見のや

きを所の名もて青貝を交ると唱へより青貝のもようといふ誤りなり

古墳一基 聖光院殿春譽貞芳大姉 寛永六四月廿九日土佐一條殿姫君長州萩廣井式部

大夫室 墓石四角 宝珠形未由不分明

妙雲院 同寺の支院あり裏門のうちあり

本尊阿弥陀佛ハ惠心僧都の作り開山ハ傳譽春應大徳

和尚といふ 生國ハ雲州ニテ八木氏あり 寛永年間の草創して大照公命

て実道備前守政義の菩提所となし

心蓮院 寶永七年の開基して心蓮社光譽上人良典真

阿の建立する所あり初大島郡佛性坊といふ古寺を移

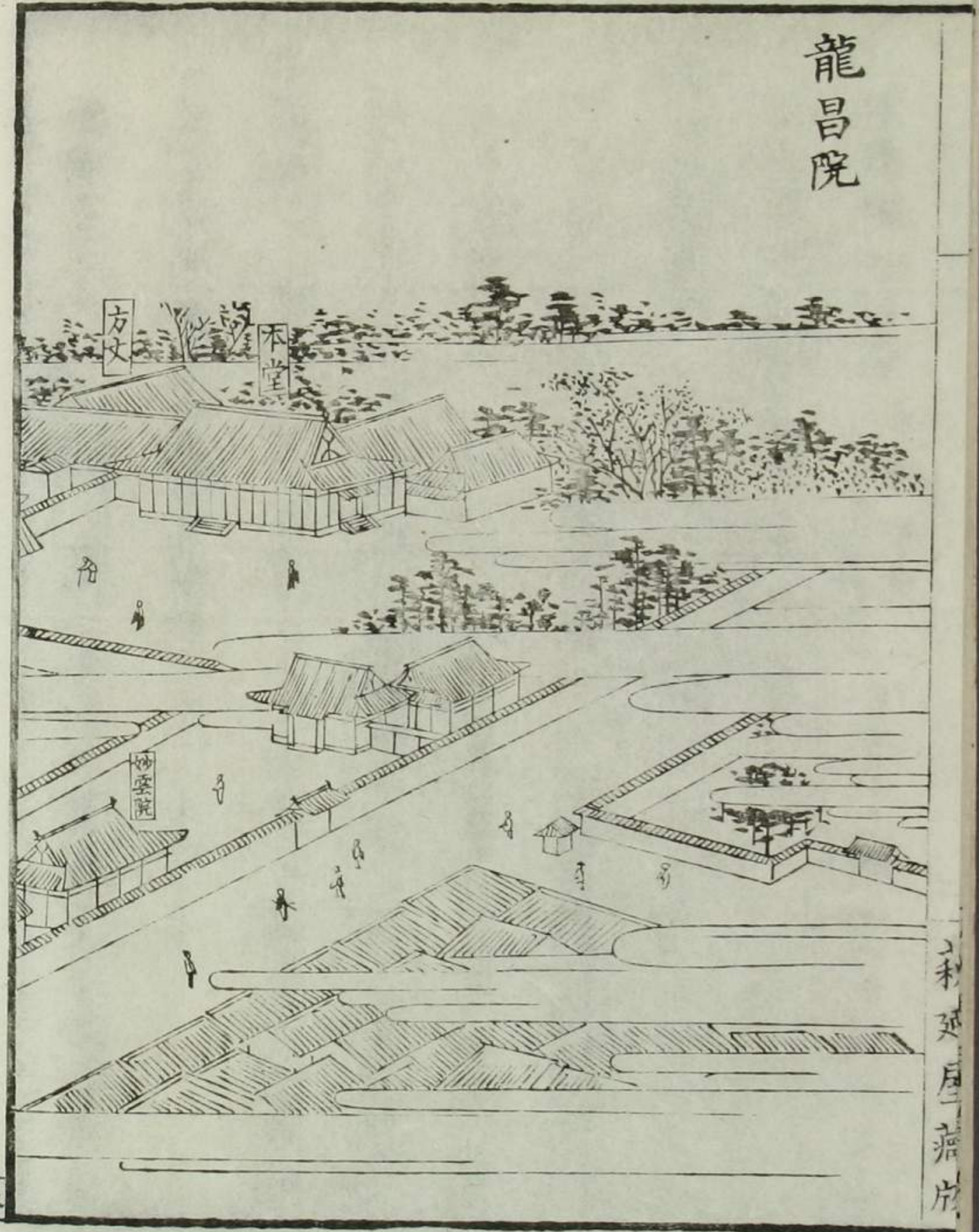
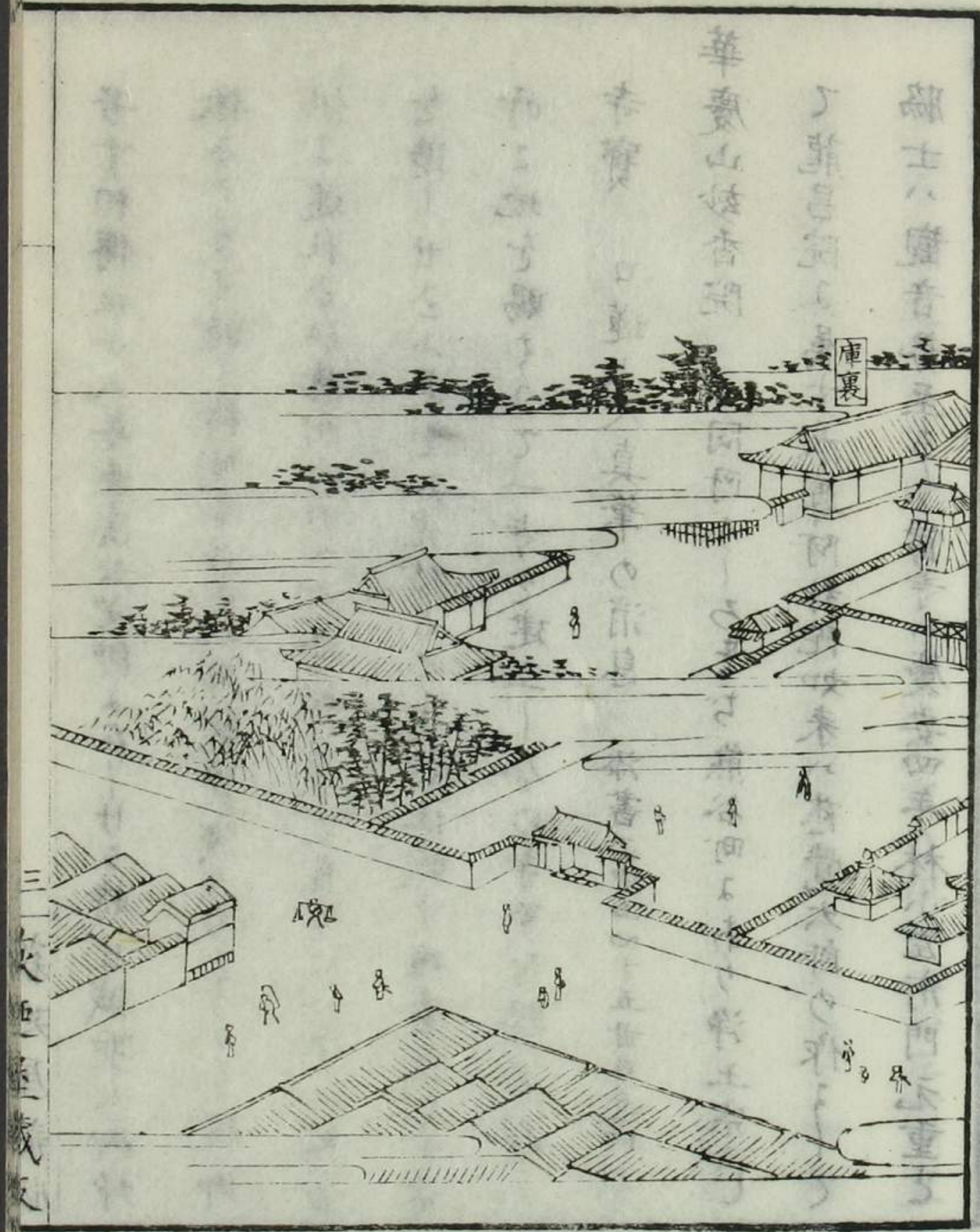
て大慈寺と号す後元文の比今の寺号に改む又宝永六年

神谷介右衛門といふ者念願ふよりて常念佛を執行せり

慈性山蓮華寺 濟口もち西詰北の角にあり日蓮宗より

て京師妙満寺に属す勝劣派あり

本尊釋迦如来 多宝法華題施主 糸賀招齋 を安ん開山ハ日誠聖人と



利延屋齋院

号す相傳永正八年秀岳公京師に在ける時日誠聖人御歸
依ふらりて時々御側召され御寵愛淺くらきりて後御
供に連れ玉ひ藝州吉田へ御歸城ありて直ちに一字の精舎
を造らせ玉ふ是を知光坊と号す則位職す後慶長年中當
所之地を賜りて一寺を建立し今の寺号を賜りぬ
寺寶 日蓮上人真筆の消息 添書に中山四十五世日近判

華慶山妙香院 同所よりそまぢ熊谷町にあり浄土宗に
て龍昌院に属す本尊阿彌陀如来ハ慈覺大師の作りて
脇士ハ觀音勢至あり當寺ハ慶安四年林小左衛門元重と

いづの者建立せし所なりといふ元重の祖林三郎左衛門重
實天正年間より御當家へ属し隆景公朝鮮御陣の御供
に加り後慶長年中吉田に住すとす小左衛門元重とい
はり法心ありて終に出家し圓甫と法号して母の菩提
をとむるは則華慶妙香大師の号をとりて一の菴室を
結ぶ依て圓甫を當寺の開山とす

芬陀利華山妙孝寺 渡り口まぢうそ熊谷町にあり一向
宗よりて光明坊に属す本尊阿彌陀如来ハ安阿弥の作
りて開山ハ大永といふ相傳ハ開山大永ハおぢめ禪宗

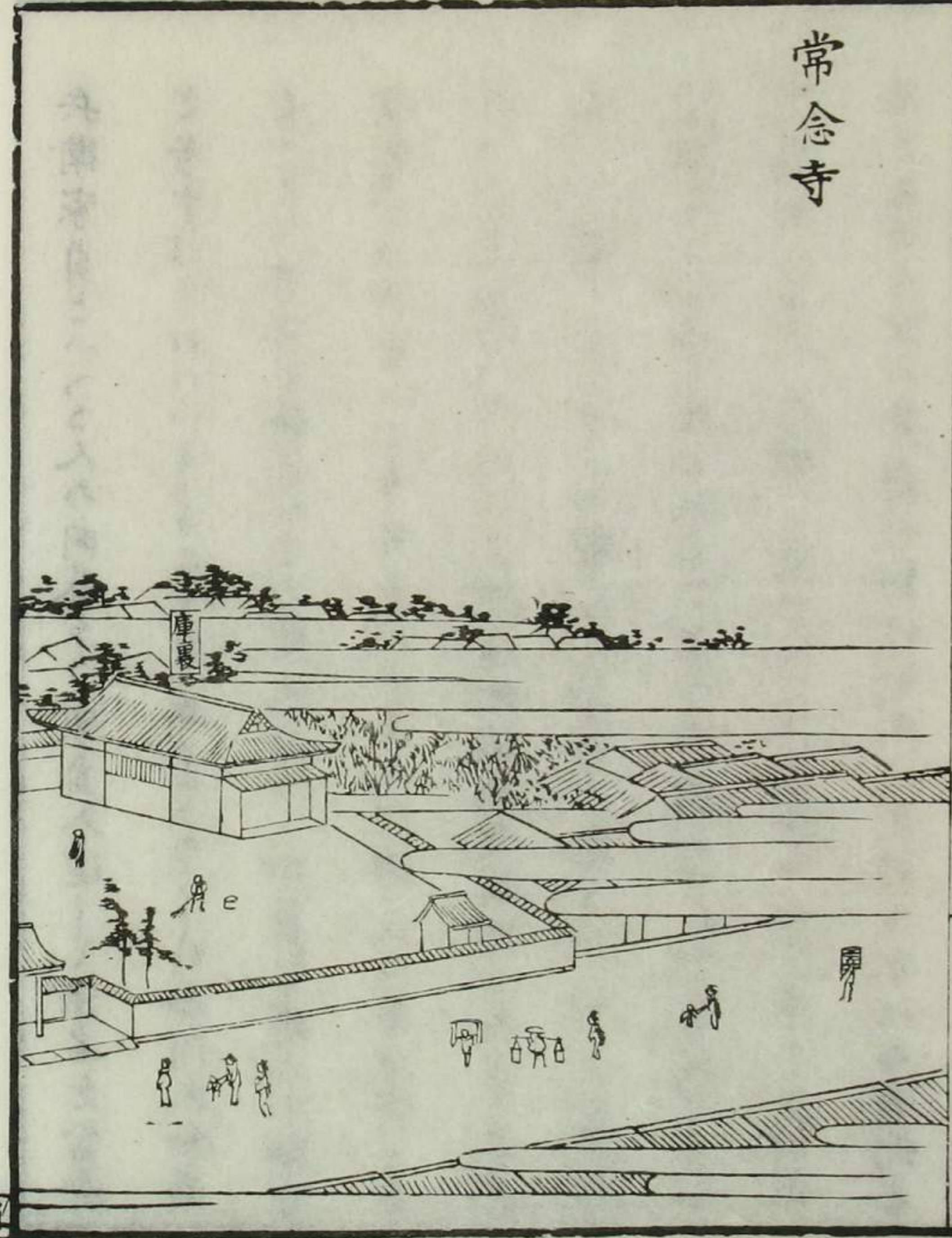
の僧より一が三十歳の春より真宗に皈依しつて藝州高田
郡の艸菴をむすび五ヶ年をより成へて當寺より來り住職せ
りといふ當寺建立の寛永のもゑとす

長榮山常念寺 不断院と号に頓振丁筋とてわづり口の角に
あり京師智恩院に屬す長州鎮西社一派の觸頭として菽
三箇寺の一員たり

本堂本尊阿彌陀如来の慈覺大師の作として脇士觀音勢
至の大佛師康猶の作たり開山の覃蓮社信譽上人西阿大
和尚といふ相傳ふ當寺ハ中古天文年間古菽に在て阿部藤

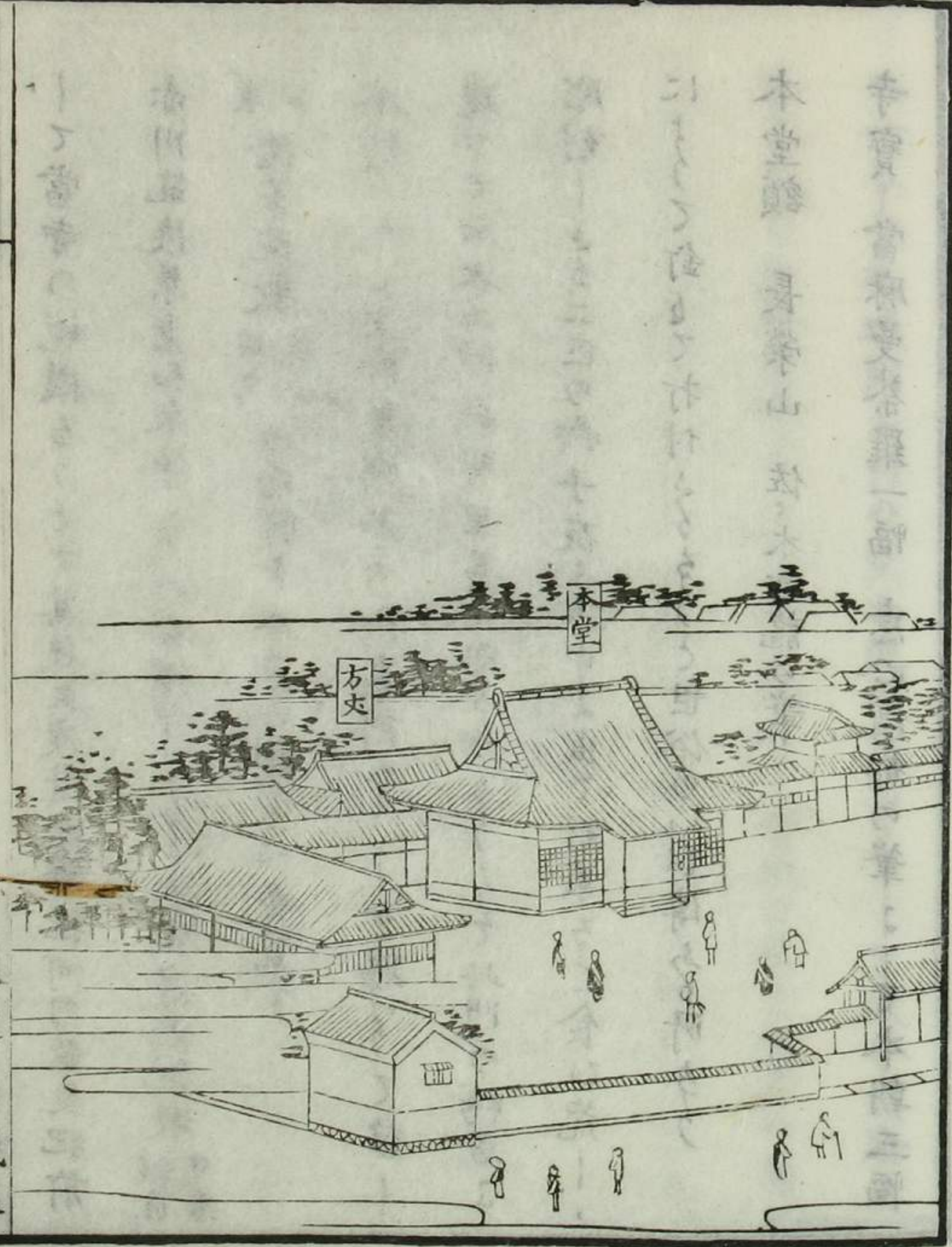
兵衛家貞といつる人の開基たり家貞入道して法名を常念
と号すはしめいさうなる草菴とありしか西阿大和尚
ととに佛法を廣めんとて當地へ迂り伽藍を建立し即て
家貞が法名を以て寺号とに夫より阿部氏の菩提所とる
せり其後慶長の初 天樹公御城地を觀むるとと菽の
地へ下向しむひるす時暫らく當寺に宿りむひて日出度御
超歳あはせ玉ふ是より依りて年々寺糧三十石を寄附し玉ひ
伽藍等より莊嚴を極むかる由縁を以て是より後正
月三元日の間ハ佛前の勤行を止む是則ち永代の吉例と

常念寺



新刊屋敷版

五



新刊屋敷版

四

して當寺の規模をりとする其後又渡邊飛驒桂河内粟屋肥前

赤川筑後兼重和泉等五人の菩提寺とする近頃浄光院殿越前守秀

康公隆芳院殿同忠昌公の両牌を本尊の側らに安置す

本門ハ元と京師聚樂亭の御裏門を賜りて移し

建つと云木工師飛驒里甚五郎が作りしを此門の鴨居に

彫刻したる二匹の獅子夜々市中より出て野菜を食ひ荒し

によりて釘もて打付しとありと世俗のいひ傳ふる所あり

本堂額 長榮山 佐々木玄龍の筆

寺寶 當麻曼荼羅一幅 惠心僧都の筆にして本朝三幅

の一あり元城州山科の空也院の重宝ありを彼寺類廢し

およびて石田宗味といふ人曼を求めて当地に來り住居の内

死す其男久兵衛といふ人父の遺言に依て當寺に寄附せりと

云頃ハ承應の三年ありと傳記に見ゆ

渡口 一々ハ今の石橋の邊より松本船津への舟渡しのり

依て此名を稱す寛永頃より川の中より洲出きて終一打をふ

し土原と号けらしとを貞享元禄頃の菽画圖にハ今ハ家

屋立並ひたり猶も一々ハ今の粟屋氏と田中氏の間より船

津へ舟かよひせしものありと口碑に存せり

二江夜雨 一へ八重とぎ八勝のひとりて同所より
あつりをいへり

護龍山法藏禪寺

弘法寺の馬場末にあり洞家の禪室より

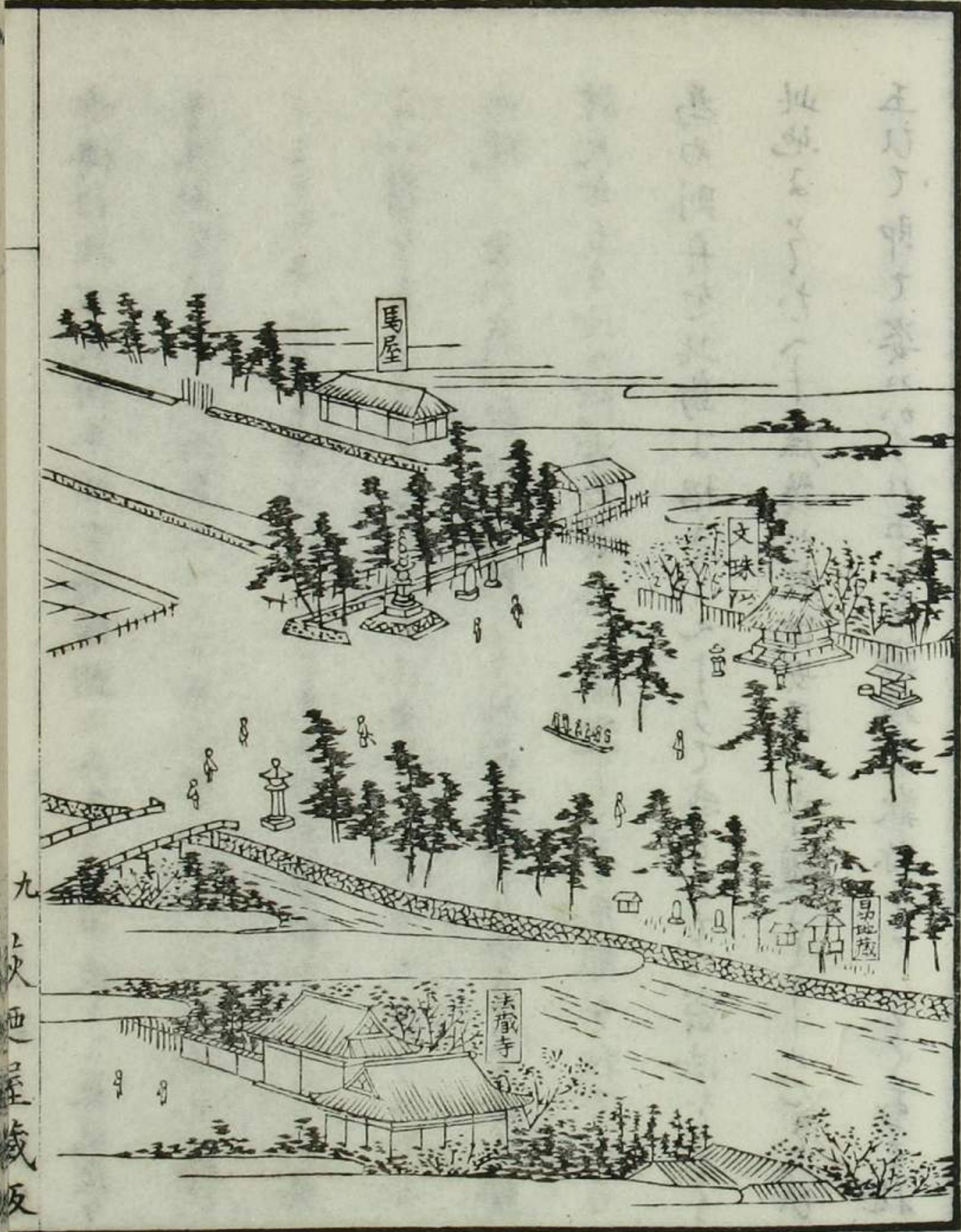
て海潮寺は属に本尊聖観音ハ聖徳太子の作りて大内義
興の護持佛よりといふ開山ハ義相本節和尚より中興ハ鉄
酸傳驚和尚より相傳ふ鉄酸和尚御國中一切経の廢るるを
憂て防州厚狭郡船木村観音寺といへる舊跡を興し慶安年
中當地より再建しと云
経藏の額西藏の二字ハ張即之の書より

寄船山弘法寺

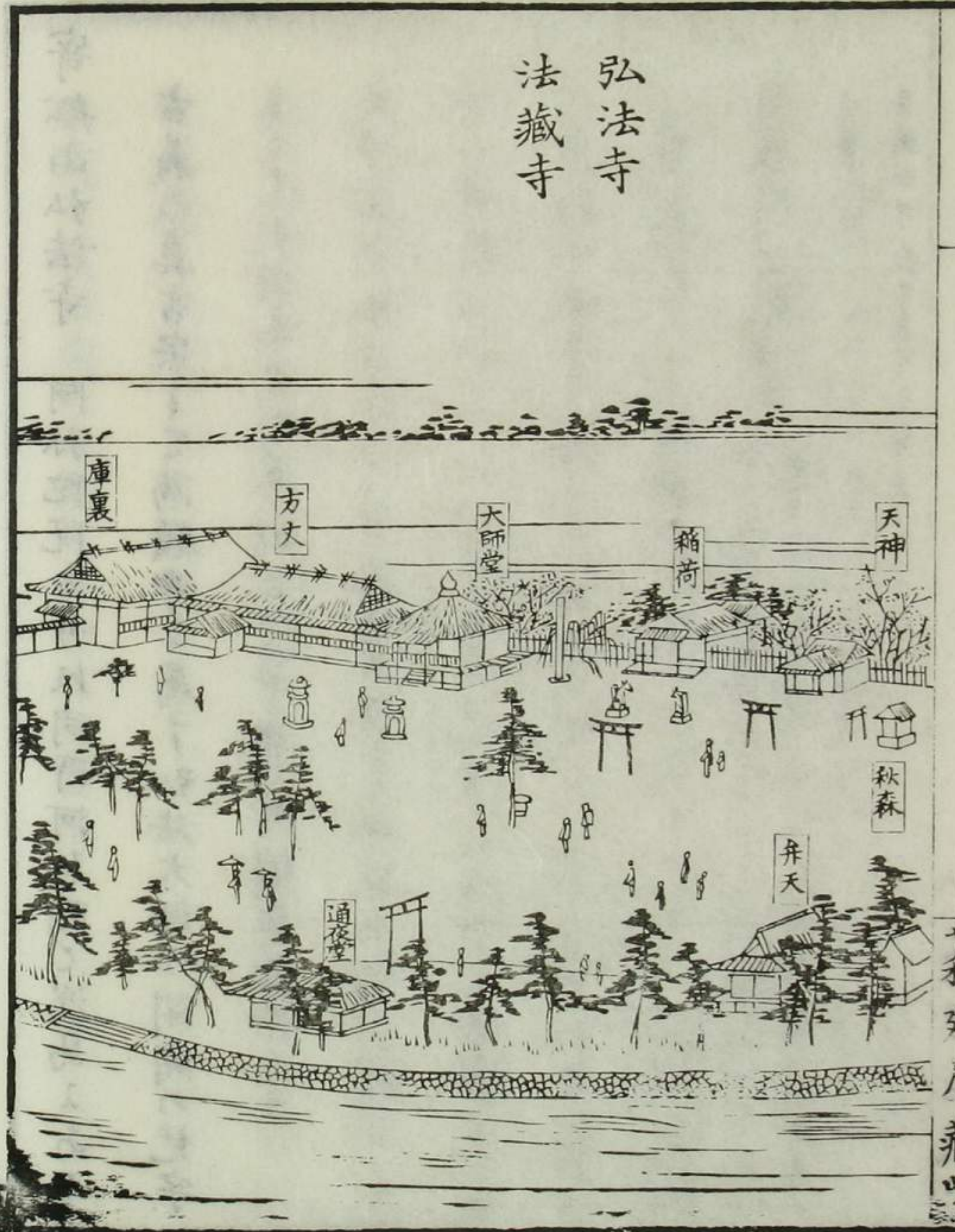
阿弥陀院と号に同所河を隔て浮島よりあり

古義の真言宗より満願寺に属す弘法大師の開闢の梵字
よりて大同年中の草創といふ中興ハ阿闍梨隆登より

大師堂本尊の石像ハ空海の自作より佛殿本尊ハ観音を
佛工運慶の作といふ例年三月廿一日より同宗の僧侶集會し
て御影供養を執行す世俗弘法祭といひて老若の貴賤より
に羣參するごとく稻麻の如く七月の廿一日より大施餓鬼
流灌頂を執行す
此日參詣人納涼をかたよりて陸より行きのハ
場中狹しとかこち舟より出る人ハ繫くん岸より
と争ふ或ハミセモの又ハあき人の声かこもり
を聞ひて夜のあくろをあらす振らひたり



九
坂
西
屋
蔵
坂



九
坂
西
屋
蔵
坂

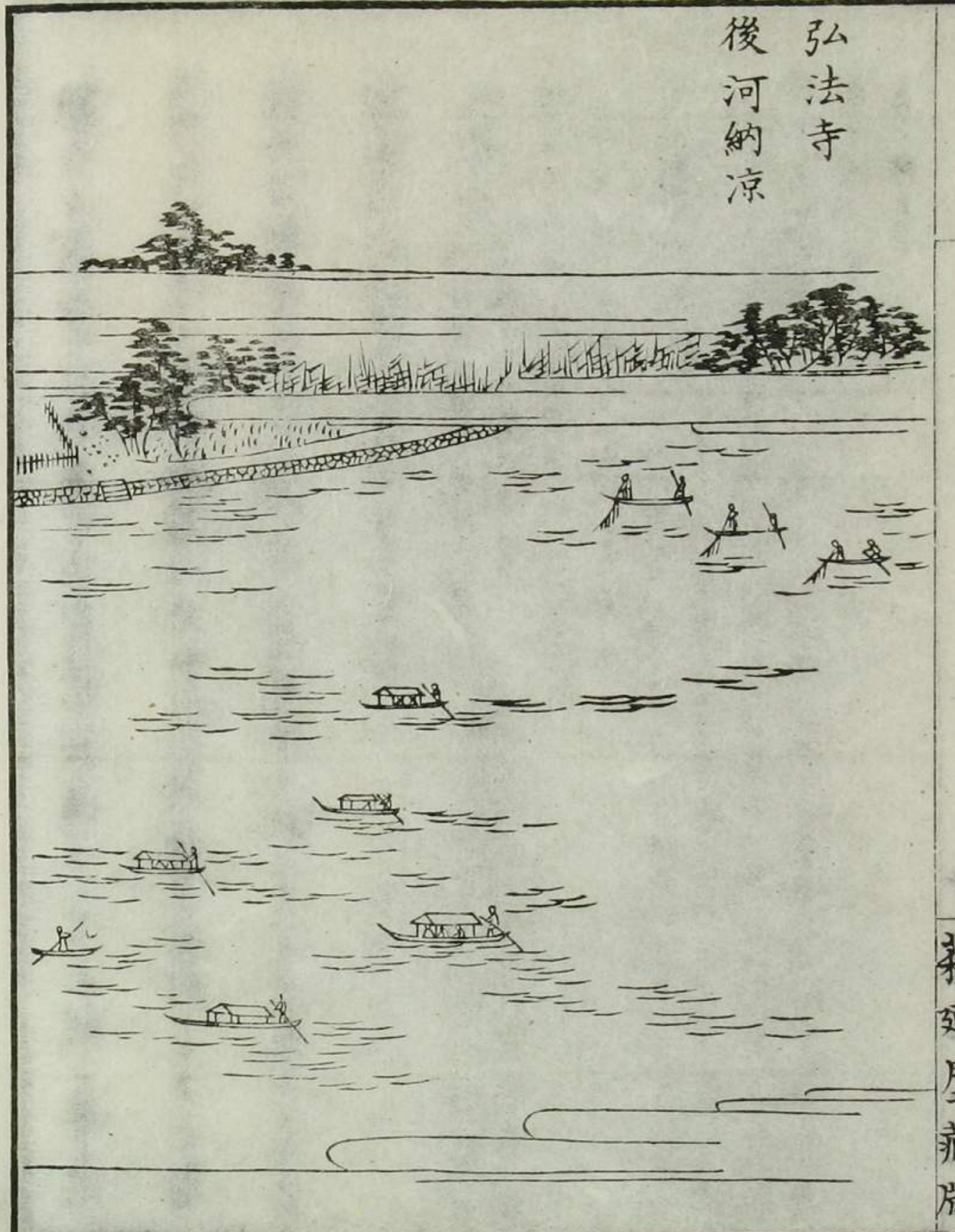
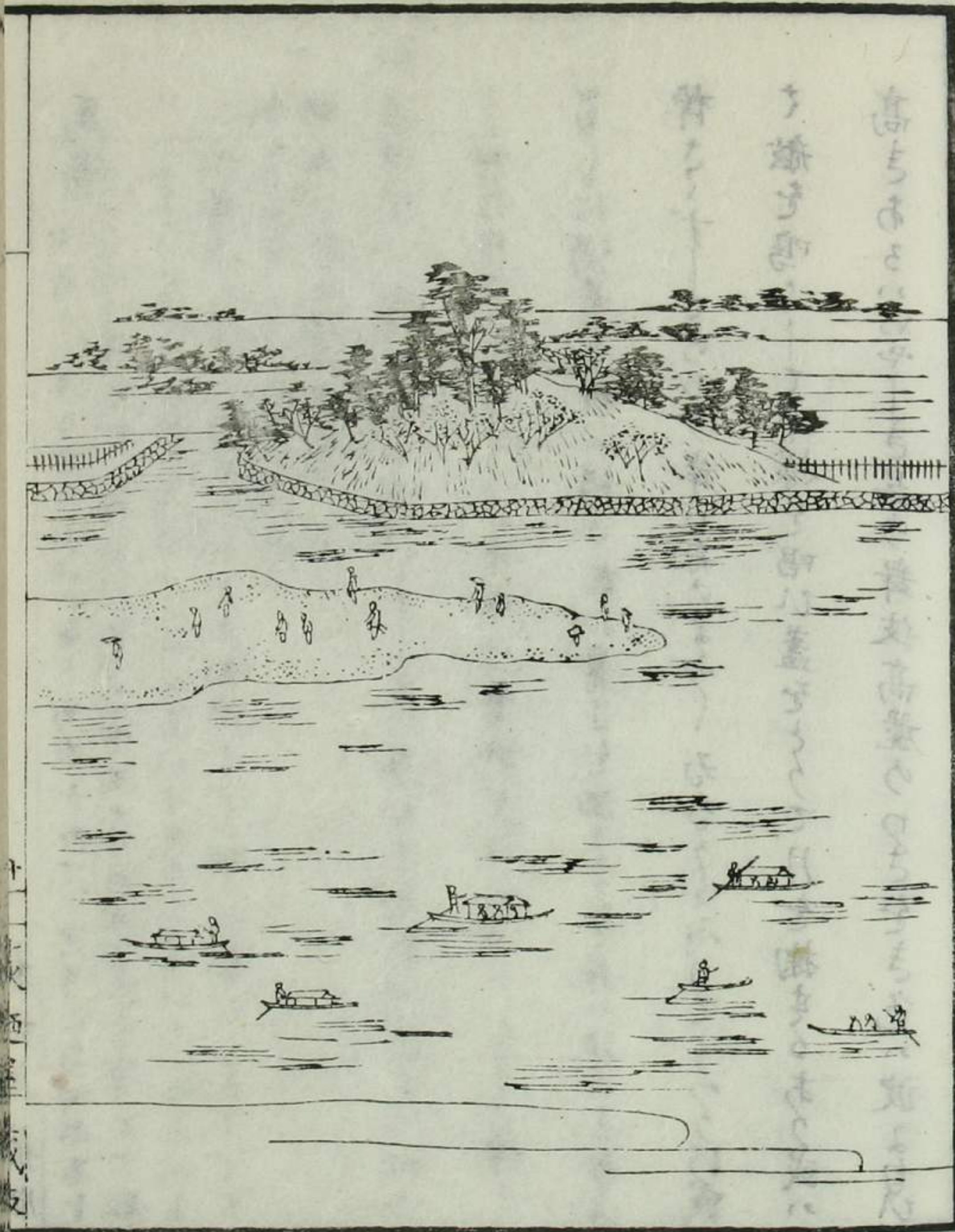
寺傳曰往古大同年間空海歸朝のみきり海中俄う暴風波り
逆浪天をいしく大雨真志くら降り空てどろどろん湊を失ひ
しよその舟此島に漂ひつきり先舟中の無難を祝して此島
に一宿をとりし夜の更ら比夢中ニ貌姿美麗なる天女
出現し玉ひ我ハ乾坤開闢より此島ニ跡を垂まると地主辨
財天女ちり汝ハ阿古の蒼海ニ漂流し危難を救はん可
為め則舟を此島ニ招きしより我とともニ密法を承く
此地よりむへ庶幾ハ救世安民の守護とせんといひ
玉ひて即て姿ハかくれ玉ハ空海須臾歎稱していとくあをれ

懇るる靈告くれ我真言の密法や感通しよん誠し尊ふへ
きことありとて即旃檀の木を以て尊像を彫刻しまご自
作の石像をもとに此島ニ安置せしめりさるるをよりて
寄船山弘法寺と号しんことを

文珠堂 手水屋の西に並ぶ本尊
文珠弁ハ唐仏といふ 日限地藏堂 同所に向ふ此本尊地
藏の石仏ハ有信り輩

浮島辨財天女堂 大師堂より巽の方ニあり祭礼ハ三月七日なり
近來八月朔日とせり縁起ニ曰此弁天女ハ當所の地

主神ニして應護无量の中ニ火水風病凶盜危の七難を救ひ玉ひ衣食住財
開運无病長壽の七福を授け玉ふ靈瑞の著しき尊体ニして則弘法大師密
法を施行す
し神ちり



弘法寺
後河納涼

新延屋齋

馬場

宝曆十一年に成る其地ハ毎月馬市をたて諸所ノ馬飼郎馬を引出て賣買せし繁昌ノ地ナリ借馬土弓料理茶店等ありてむ賑ハへりといふまに明和二年始りて芝居真行すそのうち文化十三年の秋より歌舞伎からくり人形などの芝居簡屋なども賑ハひ繁栄しつゝ文政の十四年より止められ其以後ハ騎射の稽古場を建たれり

弘法寺川

廣大なる流れにして川幅およそ百間ありぬへ

四月の末ついでよりハ市中の貴賤夕日は汗にまみれ棹とるゝに酒肴を携へ樽の前に暑さを洒んとそ舟ハ汐のまみれ棹さすすてのわり岸ハ舟のまみれをちりりみりてうづりり或て船を鳴らして今様を唱ひ盞をとりにて月を掬るるあり或ハ高きあるいはやき長の舞伎高麗のわざをき色ハ波よひ

声ハ空よるんすこのちる身拾ふ少女ハ干潟よ立て羅綾のきりりを粧ひ錦繡の裳ハ嵐よ飄て洲沙よ映せり樓船扁舟ところせく実ハ納涼の第一よて晝夜の差別を

總源山海潮寺

魚店町をち東の角よあり曹洞派の禪園ニ

して能州總持寺よ屬に慶長年間ハ草創して開山ハ

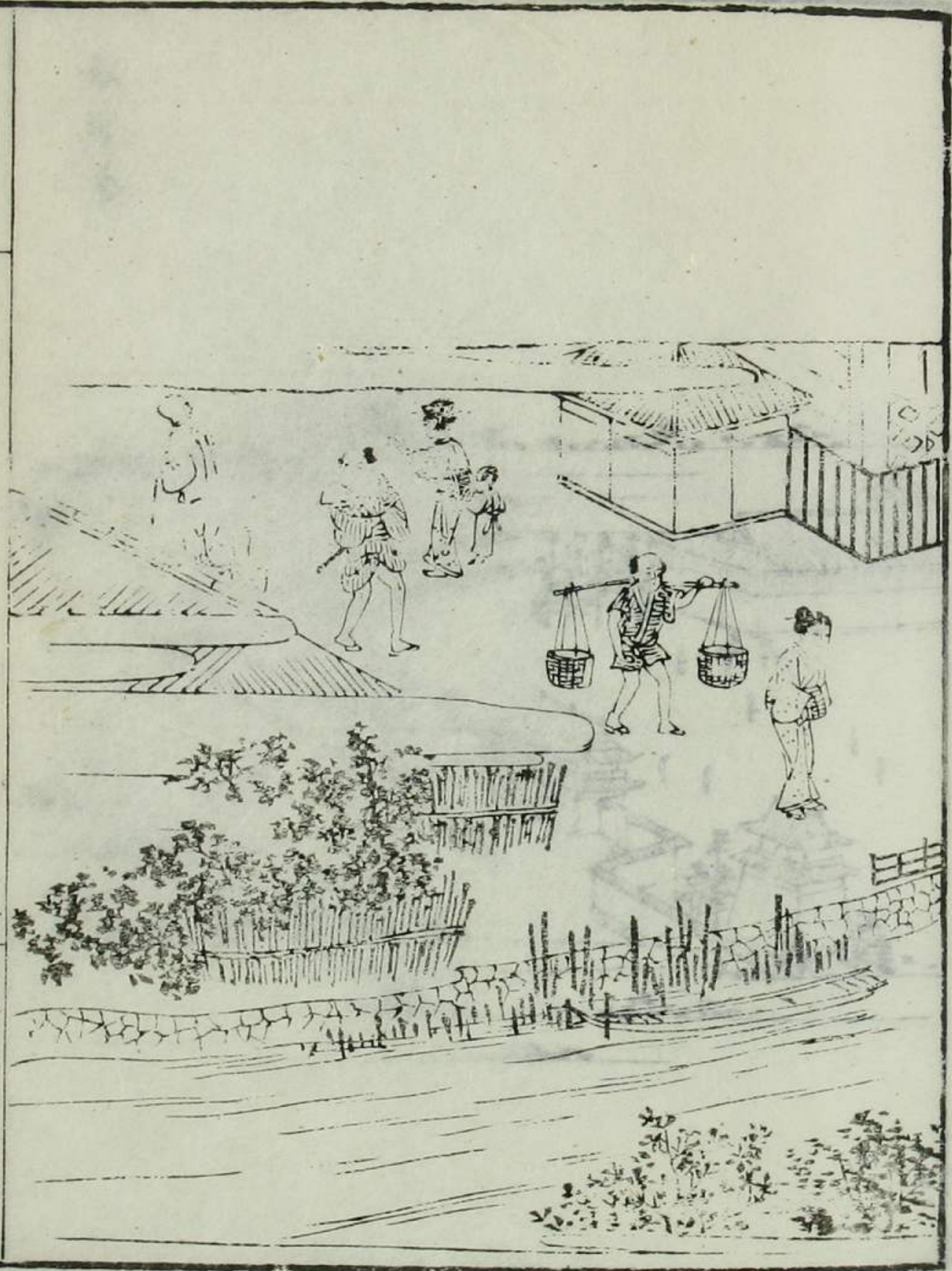
不見妙見大和尚といふ

不見和尚ハ雲州三沢村の産俗源姓よて九才の時總持寺住職三光國師よ受戒

二十才より相州圓覚ハ拙和尚を師と捨髪して弘治年中本寺十九世の住職となり後ハ當地よ來りて當寺を開山す元和のころ寂に壽八十才

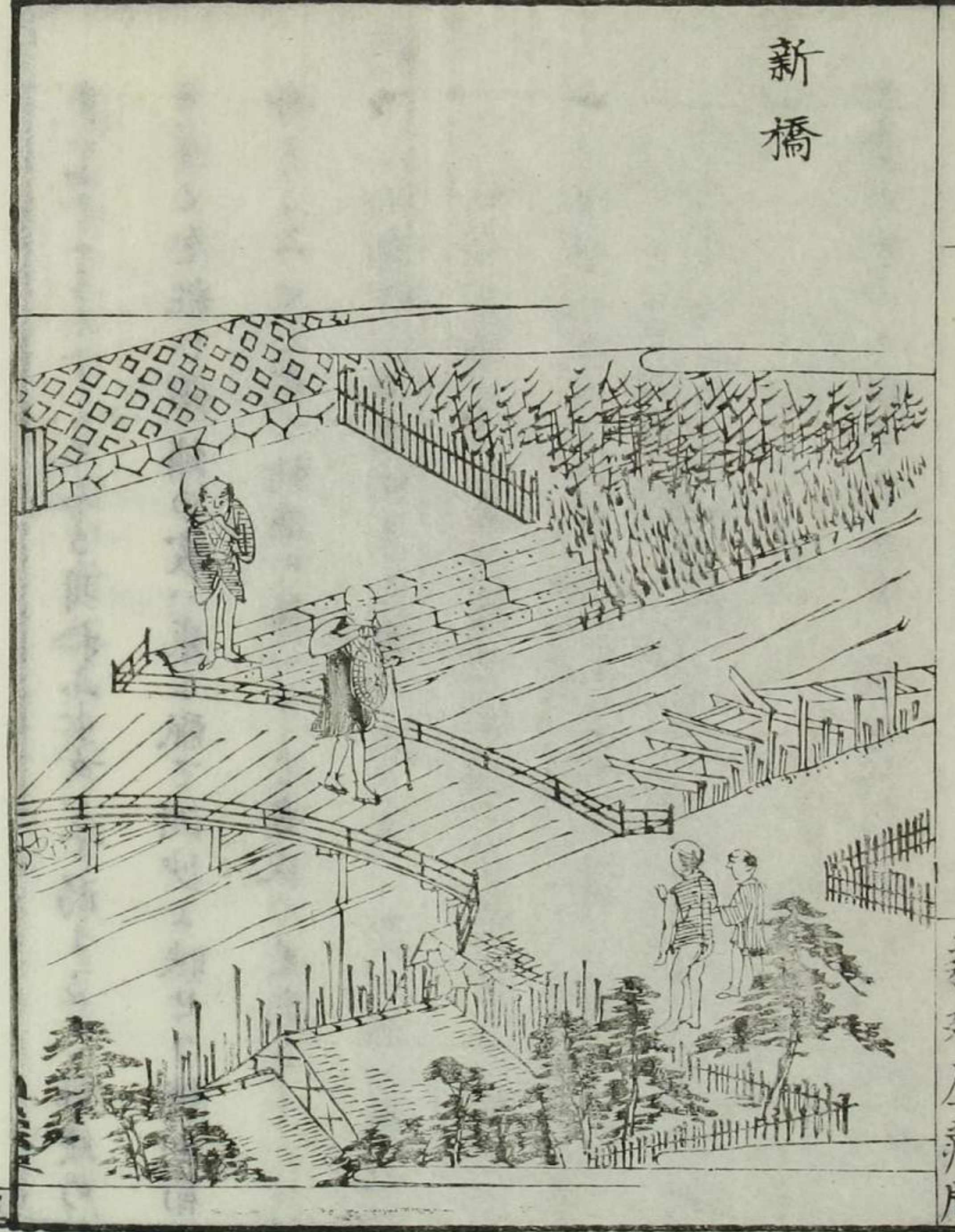
本堂本尊千手觀世音菩薩ハ佛工定朝の作

九十坐中十三仏カキも定朝の作



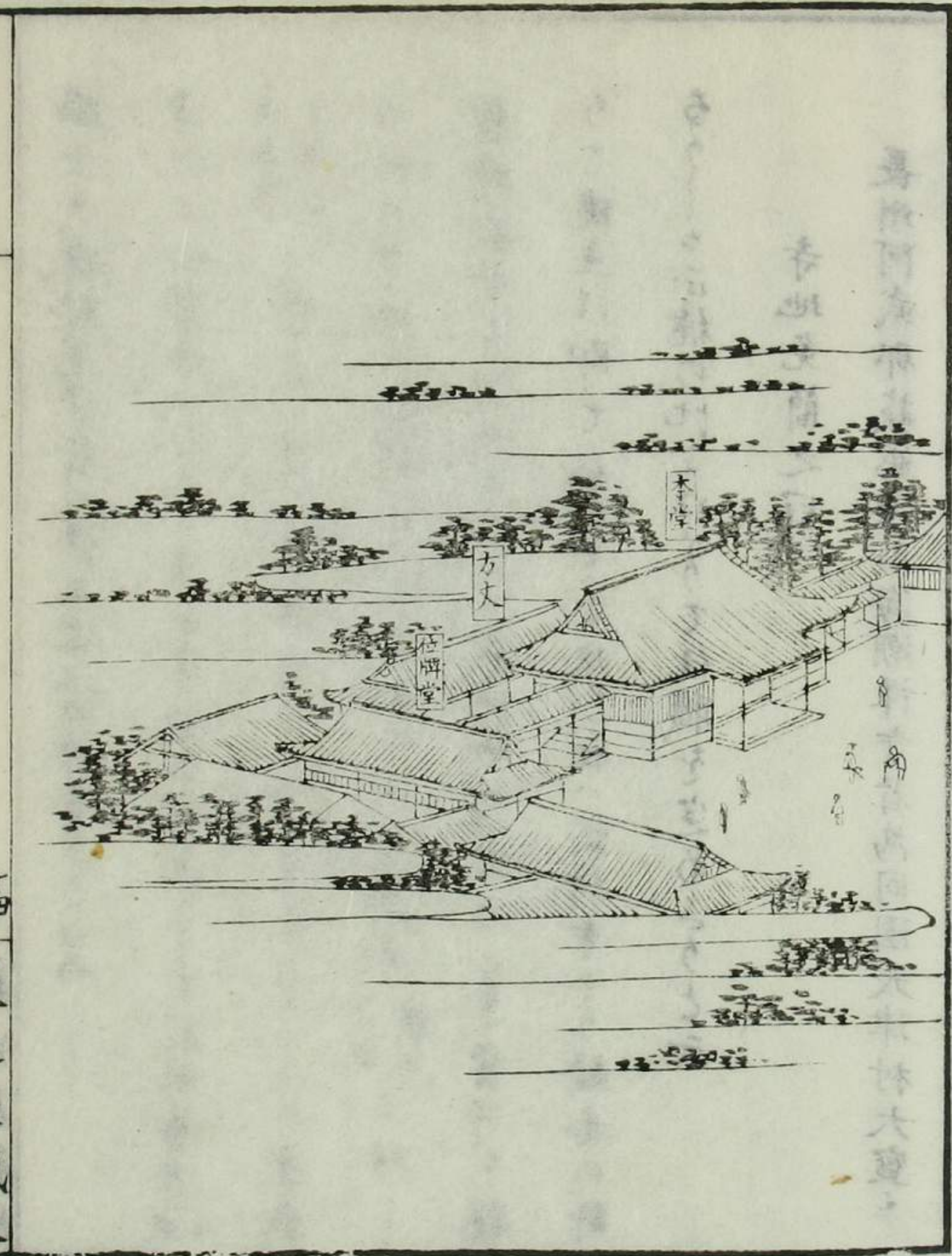
十三
 水
 田
 橋
 坂

新橋

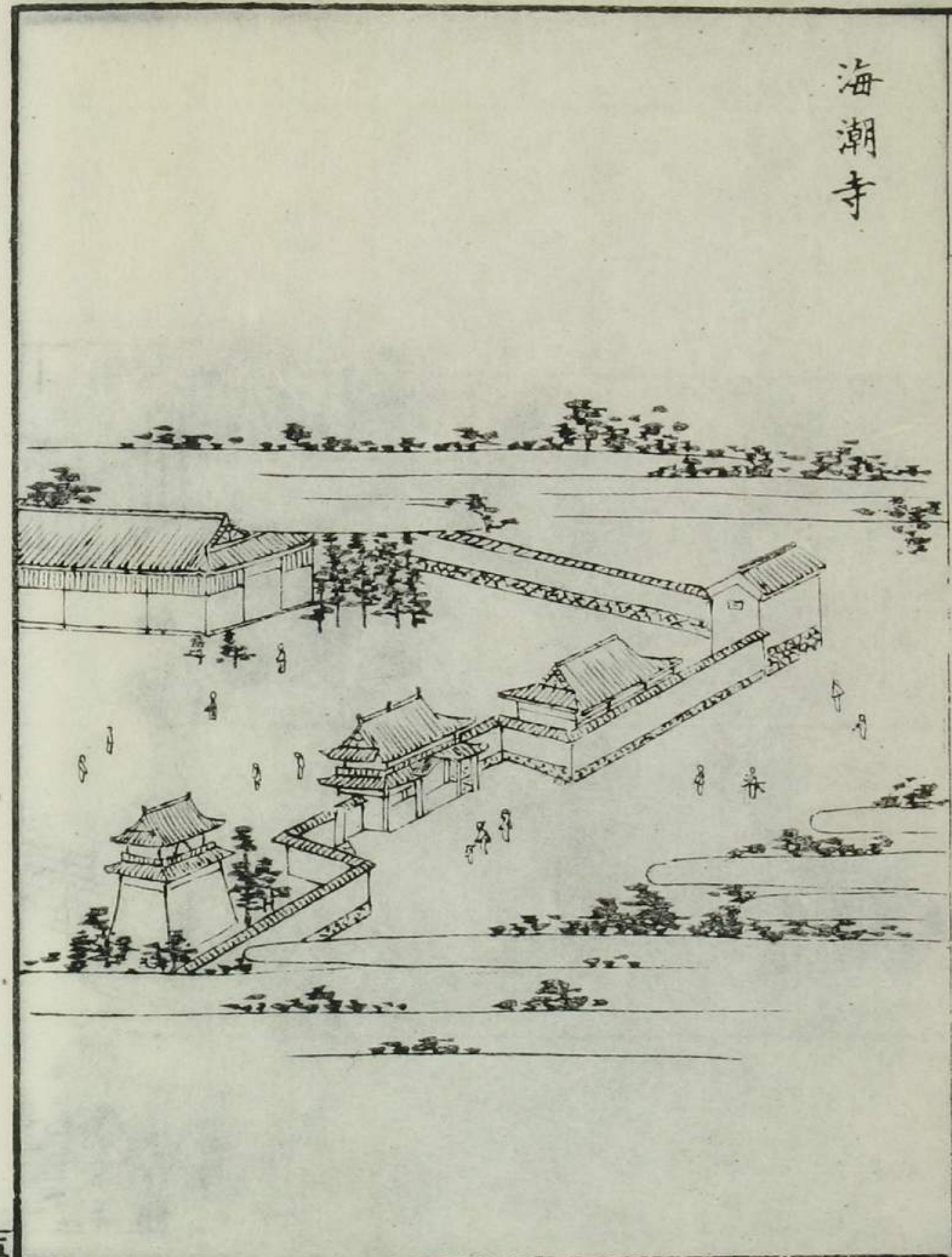


新橋
 坂

五



十四
大
大
大
大
大



海潮寺

五
大
大
大
大
大

脇士文珠勢至普賢ハ佛工近江の作るうとつふ

寺記曰當寺ハむうし應永年間の創建よりて石州湯津或ハ

温泉津 湯津山海藏寺とつる古刹ちりりり慶長

は作る の初め當地ハ由縁ありて先松下市安養寺今廣

暫時假堂を設けありりり當地御繩張のとき當所を賜

りて建立に即て今の号に改む初ハ總持寺より輪番の所

ありりり正徳の比よりりりて住職を定めりりと云

寺地免簡之寫

長州阿武郡萩總源山海朝禪寺者為同國大津村大寧

也此字 這回現住本了関東直觸門葉支配相願于茲又防長三

寺決談之上西國主命無相違旨有國老安戸就宗添翰矣

因茲遂於品評準於類例而関東三寺之直觸國內門葉之

支配免許畢向右且嚴守 公廳之憲章保護宗門之法式

者也仍免簡如件

正徳乙未三月三日

龍穗寺承天印
總寧寺峻嚴印
大中寺益州印

石塔

本門の左堺の内よりありノッラ石よりて碑面ハ北条氏直室林大方
兼讚院殊溪宗法大姉寛永七年庚午六月廿七日と刻む

同一基

左にちらふノツラ石ニて碑面ニ同息女称姫路高正院
運悟妙慶大姉寛永十八年辛巳十一月九日とちりむむ

新延屋藏版

本門の

夕毛の再々剝苔被拂入

柱掲
ろ聯

化蝶仙轉若又進歩氣也

本門の
前掲

衆善奉行

諸惡莫作

額一枚

総源山海潮寺

肥前天草東向寺泰林筆

長存山護念寺

同所より少く西あり浄土宗よりて長壽

五

寺に属す開山の長存大徳大和尚といへり

俗姓ハ福井氏あり

當寺ハ

慶安年中の建立よりて則開山長存の二字を以て山号と

に本尊阿弥陀の三体ハ聖徳太子御作脇士の観音勢至を

とむりハ本寺の境内にありとむるとを

詔興山妙性寺 長壽寺の裏門に對ふ日蓮宗よりて京師

妙満寺に属す本尊ハ秘佛よりて深く厨子の内に安置

せり脇士の多寶釈迦等あり大永年間の草創あり開

基ハ江戸池上本門寺六世日純上人よりて大内家の菩提

所ありといふ中興ハ常住院日辰上人といふ相傳ふ當寺

十六 新延屋藏版

備後國尾道にありて浄雲山詔興寺と号し慶長の始
 天樹公御打入の時日辰和尚を御供に召されてまづ山口に
 遷し建つ後當所へ轉に其頂ハ妙永寺 過去帳に井原彦右衛門何某法名妙永とあり
 り則井原氏の菩提寺として といへる大地よりて寺内は脇坊
 當地へ通り来るより見へたり といへる大地よりて寺内は脇坊
 といへる兩の梵室あり号て圓樂坊 聖徳太子を安置す 真如坊 ナ利支天
 を安置 といふ ちるにいつの頃より廢失して今の如くま
 置に を安置す
 あり即ち本尊ハ相堂に安置し奉る法明曆の比今の寺
 号に改めたりとを

寶物一軸當寺二世日禰上人參内の時賜り律師の宣

旨り

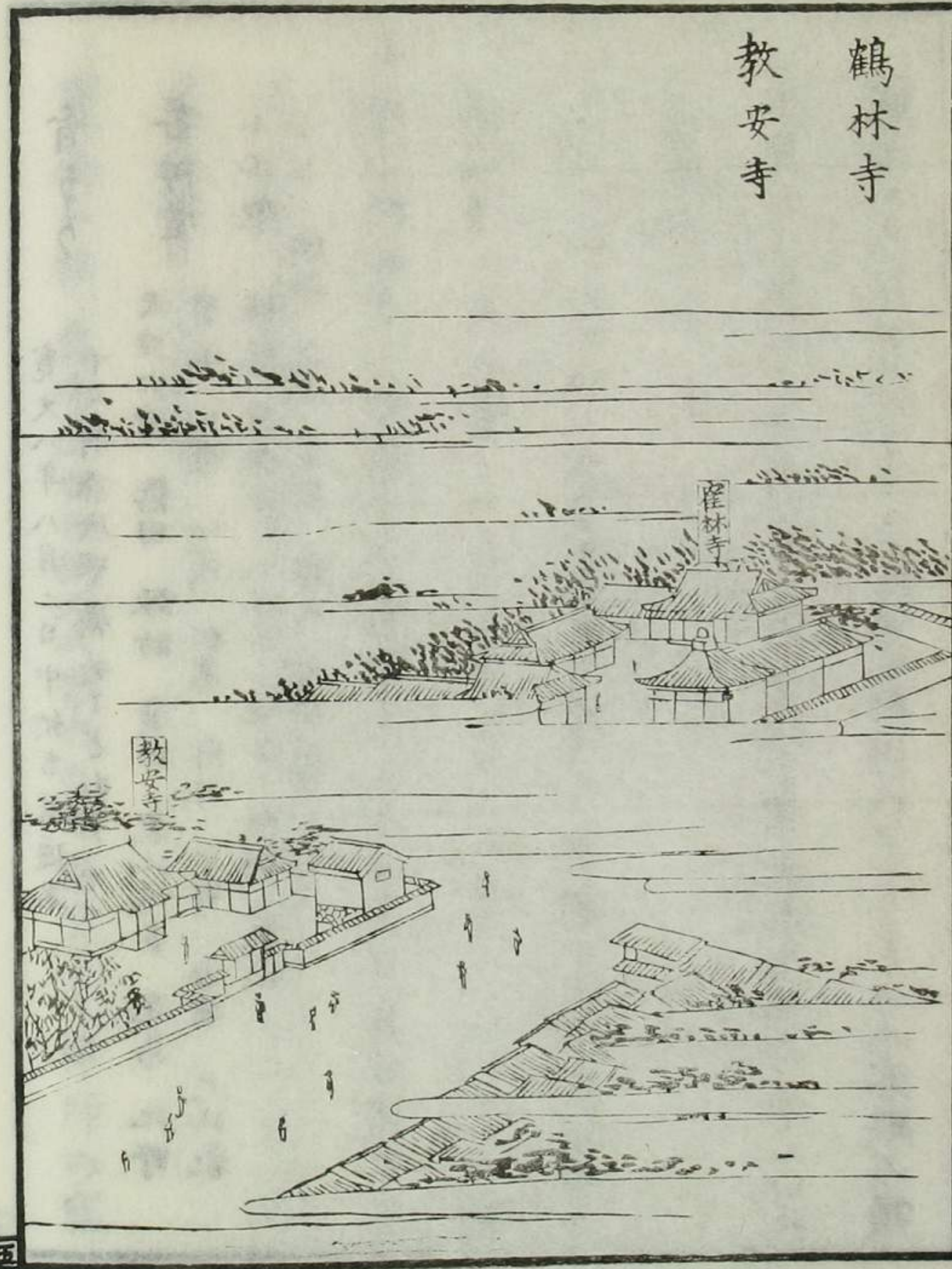
寛文八年八月二日中納言源通名
右少將藤原資廉云々とあり

番神堂 天照大神 熱田 諏訪 廣田 氣比氣多 鹿島 北野
 貴船 八幡 加茂 松尾 春日 平野 吉備 大比叡
 小比叡 権現 聖真子 八王子 住吉 祇園 赤山
 三上 健部 兵主 苗荷 客人 稻荷等なり

常樂山鶴林寺 塔社のうちかきあり古義の真言宗より
 満願寺に属し舊くハ玉江にありて白林寺といひしとを寛
 永のころ今の地へ移りて号を改む中興ハ法印良順より
 開基詳りなきに

本尊ハ不動明王の画像智證大師の筆日本三幅の一といふ
 脇士ハ文珠薬師よりて弘法大師の作りといふ客殿の額

鶴林寺
教安寺



佐々木玄龍の筆あり

観音堂

本尊如意輪観音は長祿七観音の一として七番目なり詠哥
おのつらら西吹風は鷲の殿の林代をまきしき

靈光山教安寺

同所對ふ角あり鎮西派の浄土宗よりて

常念寺は属は本尊阿弥陀如来は聖徳太子の作して開山

は性蓮社見譽心巖和尚より相傳ふ元祿元年の建立より

て願主は河野壹岐といへり人ありといふ

來陽山梅岸寺

同をびして仲の町の北の角あり鎮西

派の浄土宗よりて常念寺は属は本尊阿弥陀八佛工春日

の作して脇士の観音勢至より開山の教安寺五世覺蓮

新編 聖德太子傳

社往誓字ハ良閑和尚隱居せしうち當寺を建立せしといへり
寛延の頃雷火の爲ニ燒失して傳記等詳ならず昔ハ寺
内ニ一株の梅樹ありて周リニ圍にあまきりと里老の言傳
ある所なり今門内左側ニ梅の小木あり昔の傳をのこし

太子堂

本堂の左ニあり本尊ハ聖德太子の御自作の尊像なり

太子堂の額

太子堂

浪速四天王寺
一掲る所
同

華表
一掲る所

釈迦如來轉法輪所

當極樂土東門也

瑞光山無藏院

同所向ふ角ニ在り鎮西派の浄土宗ニて
常念寺ニ属す本尊阿彌陀ハ惠心僧都の作り開山ハ心
蓮社玄誓助給和尚なり相傳ふ助給ハ一め報恩寺の住
職なり一退院して當地ニ一字の草舎をむらび願心寺と
いへるを開基せりといふ其後阿曾沼因幡といひ一人の
位牌を置いて則當寺を菩提所とす無藏道知といふ法
号の二字を以て寺号とすといふ創建ハ寛永十二年なり本
堂ニ掲るところの額瑞光山の三字ハ東光寺開祖惠極大
和尚の筆なり

縮荷社

本堂の左梅岸寺より向ふ

祭神

大宮姫命 大田中命 倉稻魂命 大己貴命 神功皇后 以上五坐之

當社ハ此寺の鎮守神として天驗著しく例祭ハ四月一日二日世上の人羣參りて最賑ハヘリ

馨香山本行寺

仲町とびらして同所より東の方より在り日蓮

宗よりて京師本能寺尼崎明光寺の西院に属す本尊ハ

南無妙法蓮華經の題目を安置し脇士ハ釈迦多門天より

開山ハ日靈聖人といふ當寺ハ元和年間草創より初め飯

田町よりありて妙福寺といふ後當所へ遷して今の号に改む

開基詳らざるに石塔に慶安□年と記しあれハ大くとい

此頃より建立しとるるなり

吉運山亨徳寺

同所の右角にあり曹洞派の禪園として山口

龍福寺に属す

本堂本尊ハ釈迦如来脇士ハ善財童子ハ八歳の像より開山ハ

石屋天雄賢束和尚より

永正の辰辰に

相傳ふ當寺ハ往昔真言律

宗よりて亨徳年間の開基といふ後元龜の頃宗風を轉し

て洞宗とあり元江向に地を賜ひて建立す

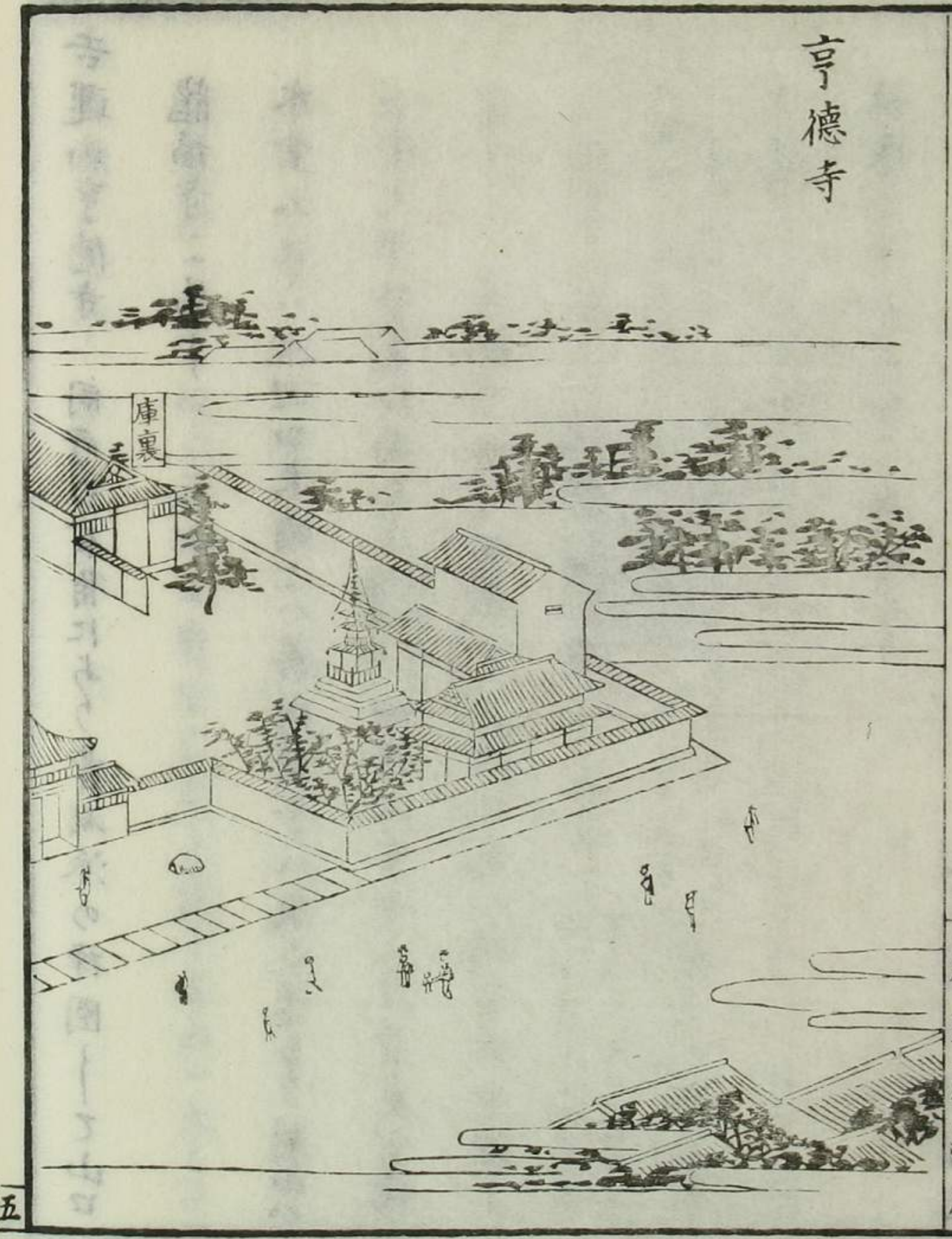
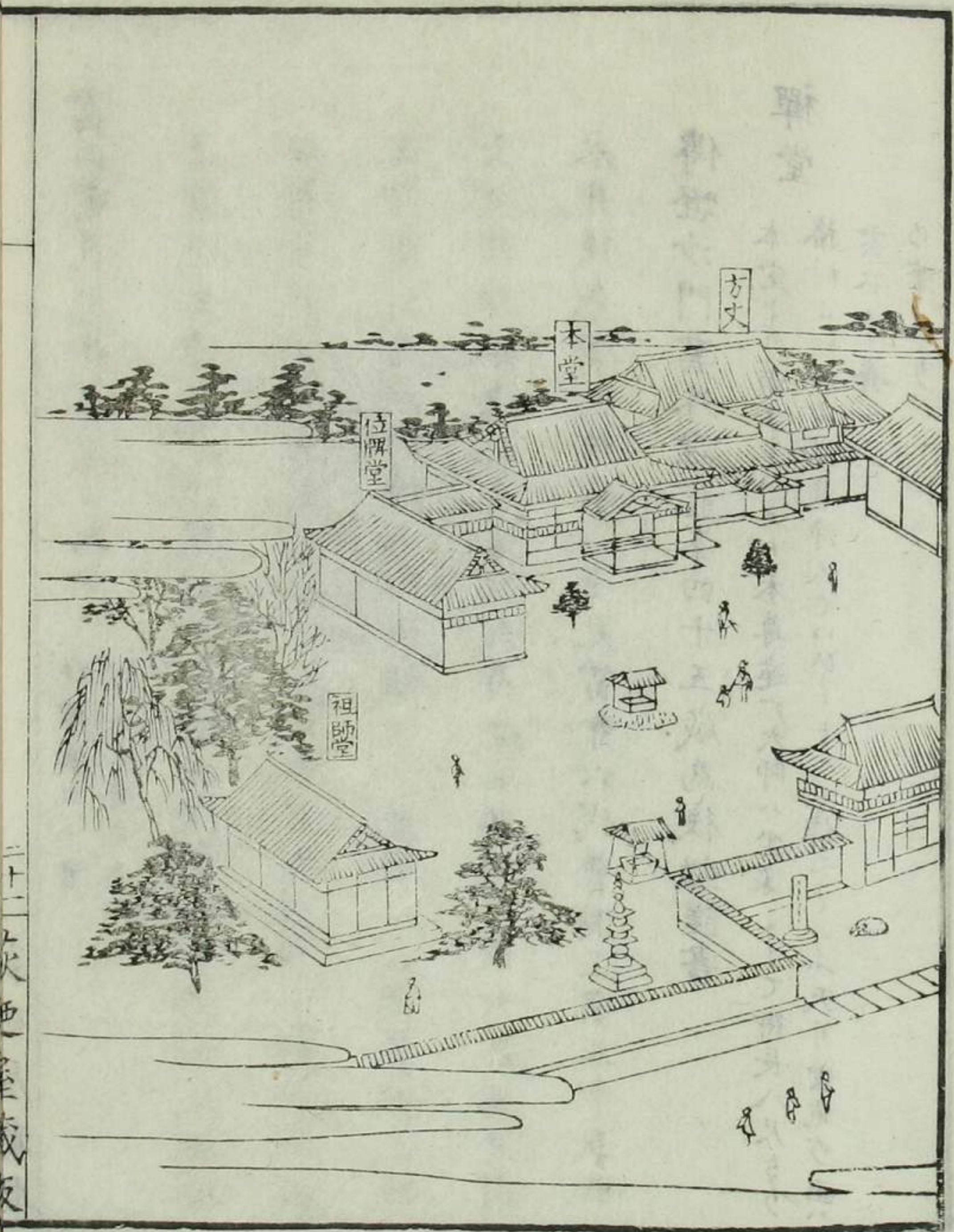
當寺存する所の古書に江向に於て寺

地免許と書す按らるる今江向地免といふ名も此証文より言ひ習とらるるなり今免を面に改む

慶安の比火災

より罹りて舊記過去帳の類焼失し詳らざるなり

承應元年今の如く再建せり



亨德寺

寺
英
屋
流
片

當山建置志并序左よあるに 住僧雲外の書
記まの所あり

予嘗遊防州阿弥陀院寺之日開山俊乘坊重源因立鉄塔
安佛舍利并志寺記塔基而到今五百歳儼然不朽予今效
之乃贅此志永以備寺門後鑑云々慶安二己丑年四月廿
六日回祿承應元春夏宗天再造宝永四丁亥七月五日前
永井後泰雲大林第一世見當寺六代曹洞正宗三十五世
傳燈沙門雲外諱龍峯四十五歳為後鑑謹書

禪堂

本堂より南すこにあり本尊達大師ハ坐像として御長八尺あり
椿村ハ住せ袋求浄人といひしもの作ことよ天井雲竜の画
雲谷等璫
の筆あり

迦藍神佛壇

本尊大権修理菩薩
あり本堂の傍あり 山門 本尊盧遮那仏脇士ハ文珠
普賢十六羅漢等を安置に

同額 吉運山

黄檗獨立の書まの所あり

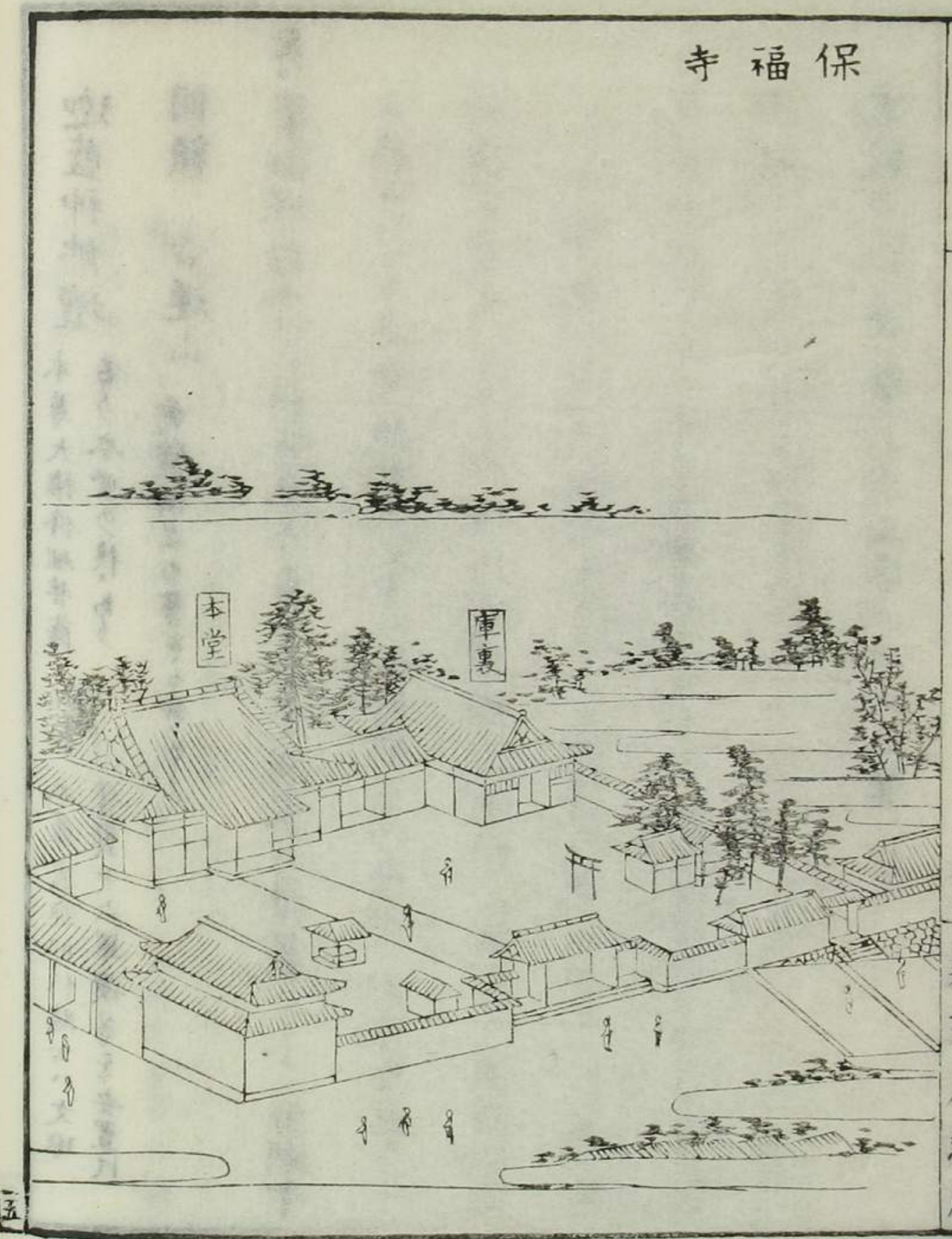
壽榮山保福寺

同所東の角あり洞家の禪窟として海潮寺

と馬せり本尊華嚴釈迦如来ハ安阿弥の作脇士ハ文珠普賢ニ
相傳ふ當寺ハちめ防州都濃郡久米村にあり一原始院と
いへる草菴を迂一河あり一衰廢に及びて久く中絶
を元和六年より海潮寺十二世白巖良傳和尚當寺を
再興して建立まの所あり

客殿の額壽榮山の三字ハ佚山の筆あり

保福寺



保福寺

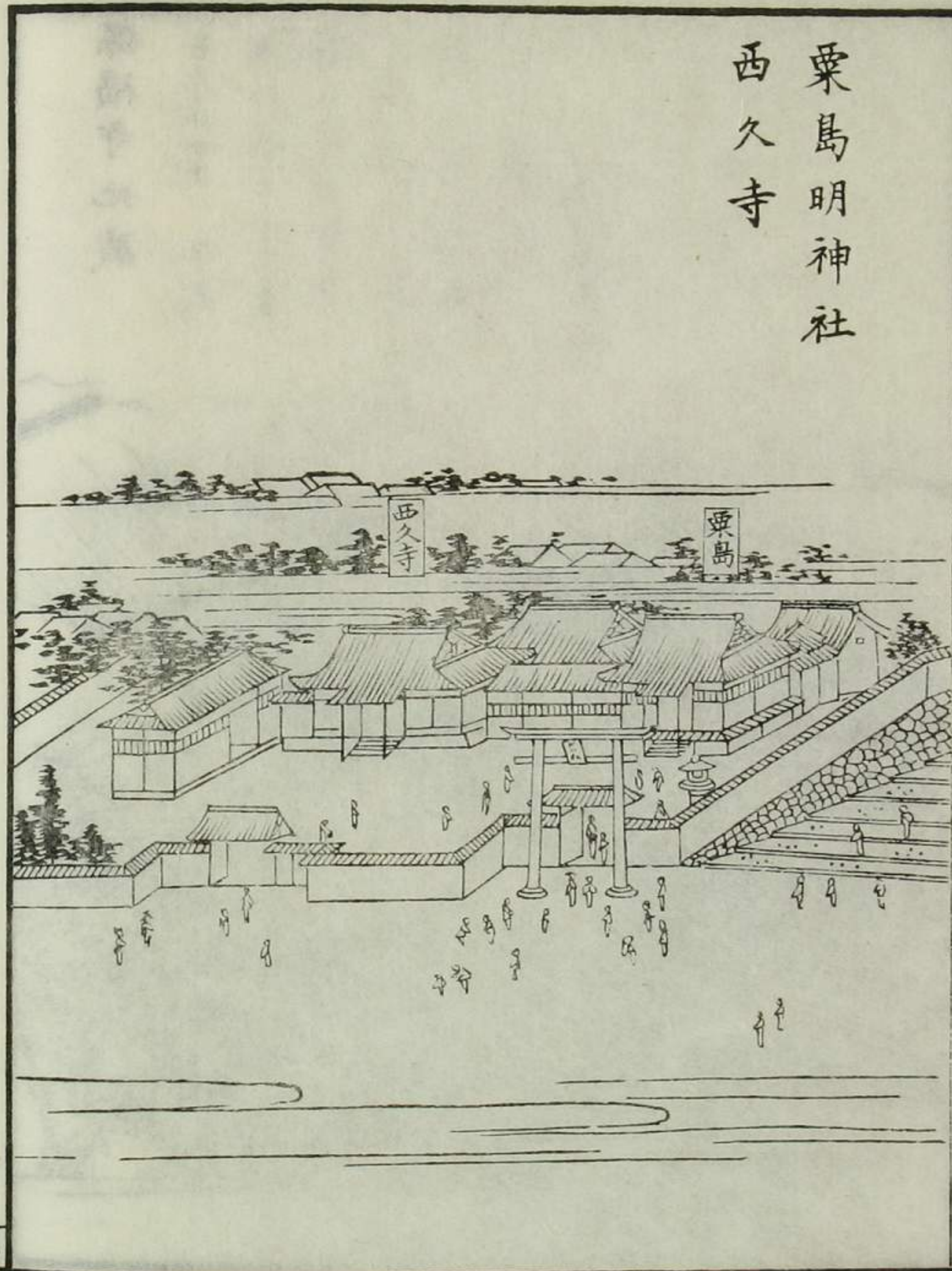
保福寺地藏

七月廿四日ハ地藏
 井の縁日とて貴
 賤の老若群集
 て夜の更をあら
 此日当寺ニ雛棚
 かさる羨まき
 見々の形



保福寺

粟島明神社
西久寺



北和屋藏版

禪堂

本堂の西にあり本尊地藏の西に石像ありて身長三尺あり
年毎の三月七月廿四日ハ市中の老若貴賤となく参詣群集に

山縣先生墳墓

禪堂より乾の方塀のきいあり
碑面周南山縣先生之墓とあり

月光山西久寺

新町中の丁南のなる角あり浄土宗にて

常念寺に属し本尊ハ阿弥陀如来にて開山ハ方譽西久

大徳あり相傳ふ慶長九年春魚棚町々人近藤露竹とい

へるとの開基の後中絶せし貞享二年に再建す

粟島社 聞譽悦山夢想ふよりて元禄十五年六月廿八日

紀州蚊田より勸請せし所あり

北濱山妙元寺 同所より筋濱手にあり一向宗よりて京

都興正門跡に属す本尊阿弥陀ハ聖徳太子の御作ニ開山ハ
玄可といふ慶安年中の建立あり開山玄可ハ北條義時の末
裔ありといへり傳曰玄可七歳の時より佛門の志ありて
興正門跡の御連枝准圓上人の徒弟となり薙髪して鎌
倉雪の下に住す七條の御袈裟珠數中啓等を上人より賜
とまり後當所より来りて一字を建立し開基藤井長五門
といへるもの、法名を以て寺号とすと云

祐弥山浄國寺 同所は在り一向宗よりて京都本願寺に属
す本尊ハ阿弥陀如来開山ハ玄春といふ相傳ふとめ藝

州吉田にありて溪國寺といへり慶長の以防州山口へ遷す
のち又當地へ移轉せりと云

靈松山西生寺 熊谷町中程にあり真宗よりて清光寺に属
す本尊ハ阿弥陀如来ニ開基祐了ハ俗姓三上豊後といふ
ものあり祐了の弟子甫順に當所の寺地を賜ふとをいつ
の比に傳記焼亡して詳ならず

萬福寺 新町下の丁中程西側にあり一向宗よりて都本願寺
に属す本尊ハ阿弥陀如来開山ハ浄頓あり相傳ふ浄頓俗
姓光井左馬頭といへり初吉田に住し洞春公の命よりて

雞髮一淨頓といふ法号を賜ひて一字の草菴と居住しこや
こ本山の末とある慶長年間防州山口に地を賜ふ夫より萩
深野町に遷す後まゝ當所へ轉せりとぞ

潮寄山泉福寺 濱崎町吹上あり一向宗として本願寺に属
す本尊ハ阿弥陀佛開山ハ玄修と号し俗姓福間掃部助政
重の三男藤右衛門政良といふ人なり元安藝甲立邑高林
坊に住居すのち同國沼田郡東福邑泉福寺に住す寛永十
八年當所へ來りて當寺を建立す

養空山松巖寺 新町上の丁東側あり西山派の浄土宗なり

て長壽寺に属す始大津郡久留村に在り安養寺といふを
遷して貞享年中當所へ建營す則今の寺号に改む開山を
玄空上人微山和尚本尊阿弥陀如来ハ惠心僧都の作也

不動堂

本堂の庄あり本尊不動
明王ハ弘法大師の作なり

住吉大明神社 濱崎町御舟藏に對ふ萩五社の一なり

神主中津江氏奉祀す

本社祭神ハ長府に在る一宮に同し

表筒男命 庚筒男命
中筒男命

天照太神
神功皇后

以上五座あり

清輔ハ奥義抄袋州紙とよハ住吉神
玉津島明神と書りされども延喜式ハ

古の宣命より住吉
三所大明神と書に社記曰むる承應年間當所濱崎町の町

人北國門屋松田忠兵衛といへるもの浪華へ登らんとて大
船は真帆引順風は漕出て既は播州の灘を過んとするところ
俄に暴風吹起り逆浪天を浸し雨は篠よりもまげくして恰
も暗夜の如し既は船も顛らんとまねども便るべき嶋も見え
ば漕寄む渚もあらず今ハ神佛の冥助を祈り奉らんとま
づ泉州堺の住吉宮は誓願をこたへ信心を抽て平安をう
めむへと祈りしに奇異なるうな白髪の老翁忽然として艦
上は現れぬと見えより直は浪静りに風浴り夕やこの空
青くもとの如くは晴りて暫しはほとに住吉の浦はそ

漕着るる即て神宮に詣り幣を捧げ奉り舟中の無難偏
に神助のあらはるる所とがこみし拜し夫より社司の
家を尋て舟中の危難靈瑞の感應始め終りのとらるる
具は物語るに社司手を打たきいへらく実ハ靈妙不思議
尊きなり既ハ我も靈夢の神告を得るる績苧成長門とい
へるに屢夢中ハ聞くとおもひて夢覺ぬけよもさる奉りあ
はつる御告るるつらんとつらんに物語るる皆ハ奇異の思ひ
をなして倍崇敬怠らんと信心をそ抽てし即て社司はか
らひ旁國ハ勸請を奉る御社にて海上安全守護の御

新屋落成

神かり始ハ鶴江臺夷森の傍ニ勧請す明暦三年當所ニ遷宮奉るまゝ青雲公御信仰より釣殿拜殿等結構を備へ奉る或人曰旧地ハ千本松の所といふ

當社祭禮ハ万治二年ニ始る萩市中の随一として六月の二十七日

八日より元禄年中ハ八月四日五日里諺ニ六月中をもて住吉祭といふその

荒増をいふんよ萩市中三十六町の内二町宛に分ち是を年

年祭事設の西町といふ其二町より踊車踊車ハ延宝五年ニ始る始ハカミスキヲドリと云

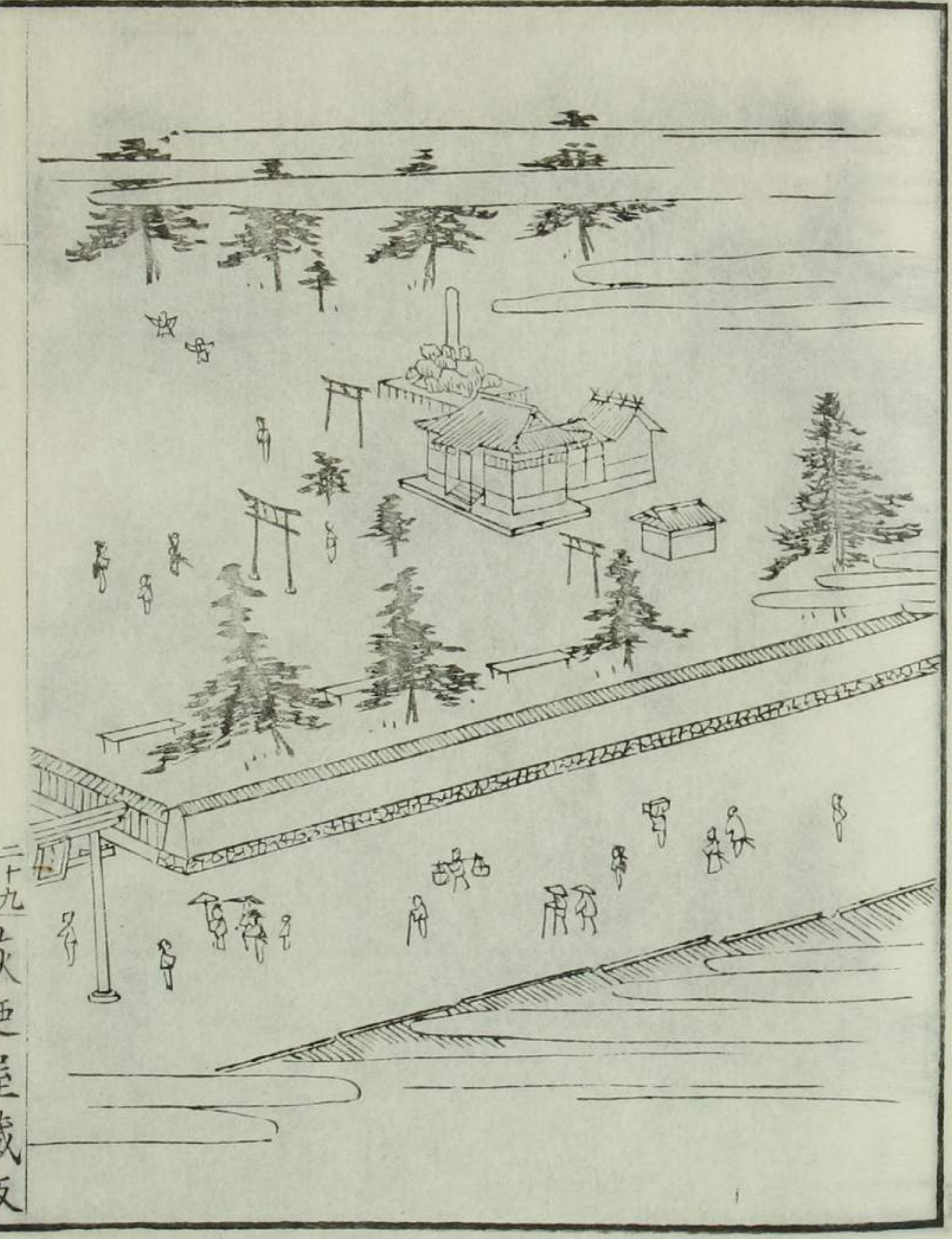
一乗つを牽出さんとして先六月の初の日より一町の内ニ兼て設おきける空地ニ仮屋を圍ひ哥舞伎芝居の業をきを朝

夕ニ催す是を朝演劇夕演戯といふやとより見物の貴賤群集ハ云も更ニ十五日より廿一日迄を藏習といひ廿二日三日を本習と云此兩日ハ大木戸を打て切符を以て見物をせし是町奉行よりの控ニ夫より廿四より廿七日迄のおもく西町夜店といひて軒毎ニ提灯を掛け燈籠燭臺敷を志す所めかきり照りかやきて晝よりも明らけく坐敷の屏風床の掛物机香炉よるまて和漢の書画珍器善美を盡せりまゝ廿七日の酉の刻より二町の十一人もの御客屋にいらり町奉行の前ニ出て末闔本闔といふ式あり是ハ牽出ん車の前後

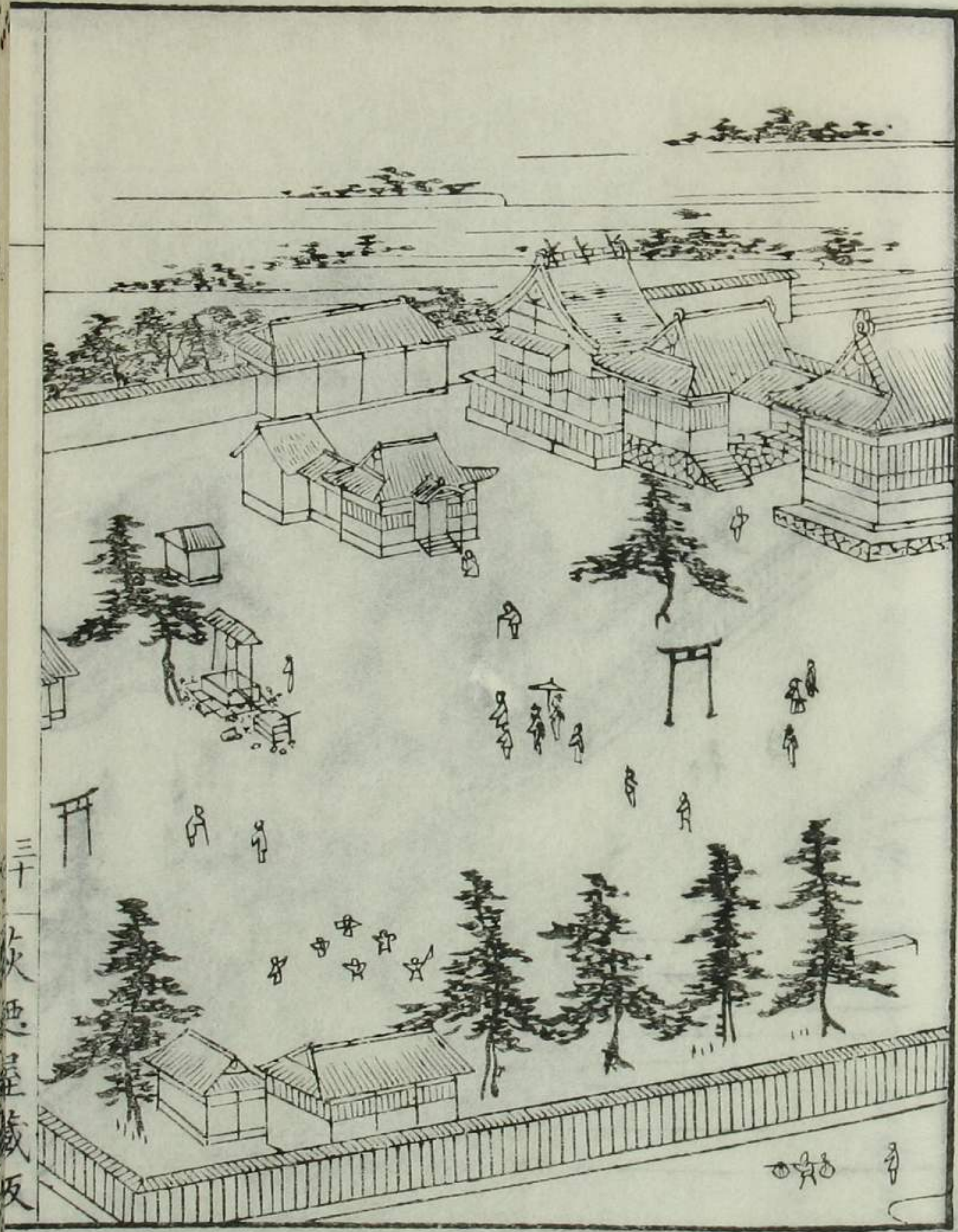
二十八日 萩市 祭儀

を争はんの怖ありてあり西町東西に相見られてかゝるよ一
 をと争ふ中みも又一人闖取と号て真先は進之苗の上
 下よ不二の画あたる金地の扇を手狭に肩眩眼をもうち
 弘て今や進一とた免らひぬかくて廣蓋は符一とる一帖の
 闖持出るより早く相方どつとめきて更よ一二ハかこさり
 たりさしはも二をとりとり方ハいつの間より己の家こゝを帰
 して音ちふりれる一又一方ハ群りのとつて千秋万歳共
 一曲を諷ひ先格の通くと家もくへり計り声に呼たり
 てま出るを旧例とす実よ目覺りりり々々風情にさせ祭祀

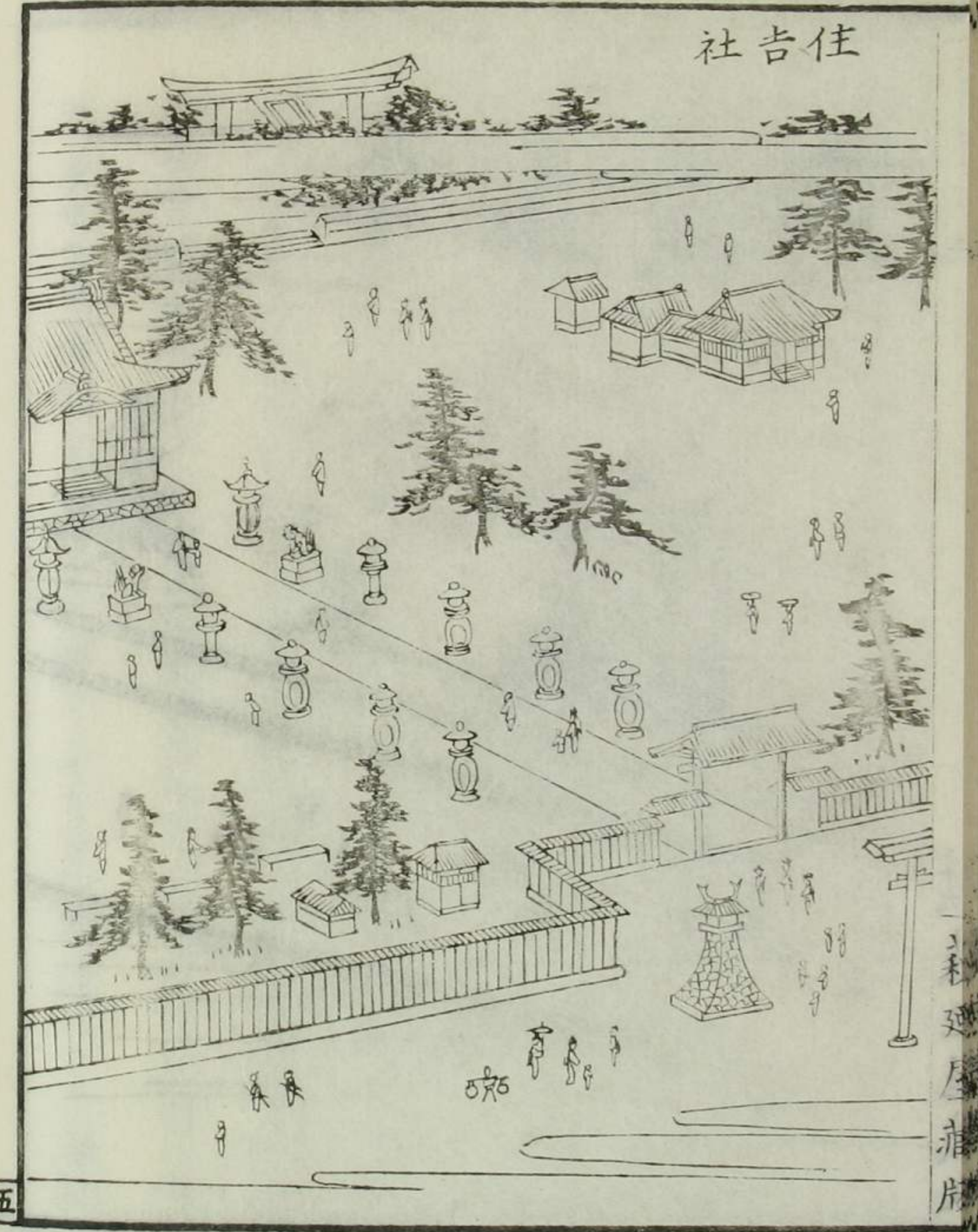
一利又屋産片



二十九 秋 延 屋 産 片



三十一
 大正
 屋
 藏
 反



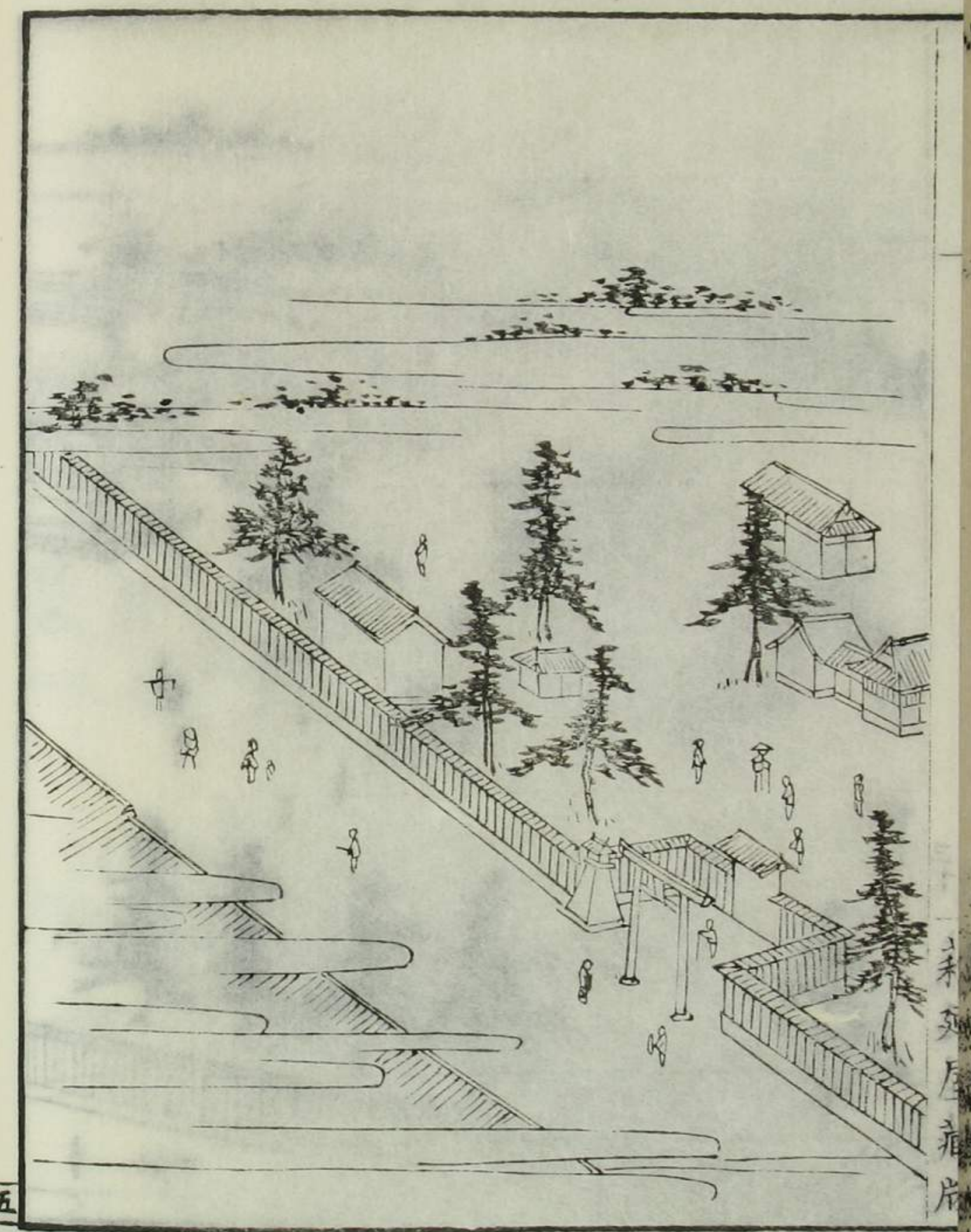
住吉社

五

三十一
 大正
 屋
 藏
 反

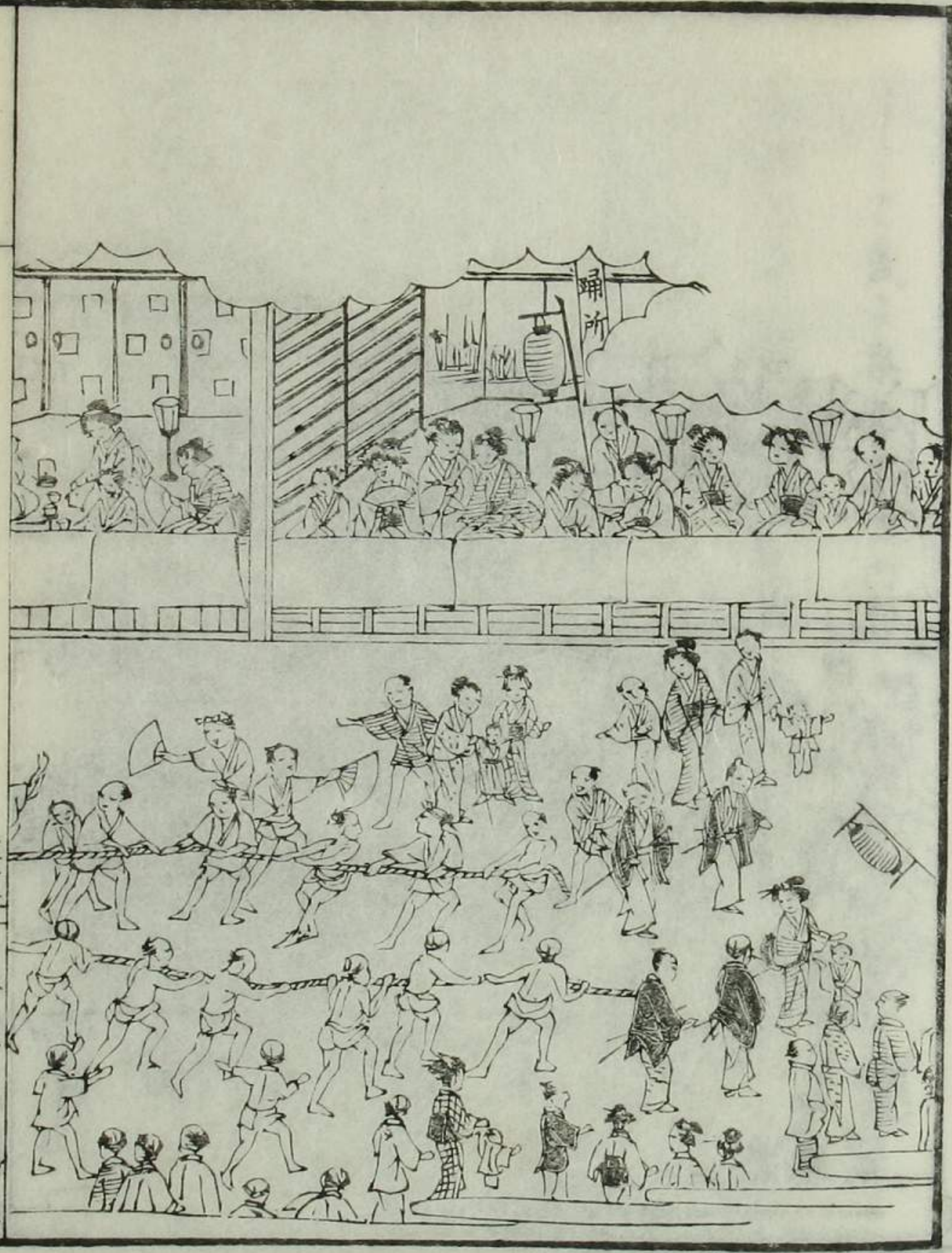
の式をいそんよの九廿七日の黄昏より賑ひひまらうて軒毎
 よ連ねたる提灯の火影の白晝よりも明らけかくて夜も東
 雲近くさるゆくはより西町の車を引出る相継て聖人の色
 色笠の數々金の幣獅子狛犬といふるまで道路を曳もきさう
 ば又御舟の鼓貝を鳴して走るを専らす神主の日柄傘に
 装束を揮し隨身の音音さふりて弓を手杖に神輿御幸
 の警固ハ巍として嚴重に備ふ此日の詣人見物の貴賤近
 きハ更にもいそに老るる杖もたれ壯るる袖もまのれ
 て我先と幸ひ出いさる幽里速村とりと雖とも遠いとせ

三十一 大正 屋敷 版

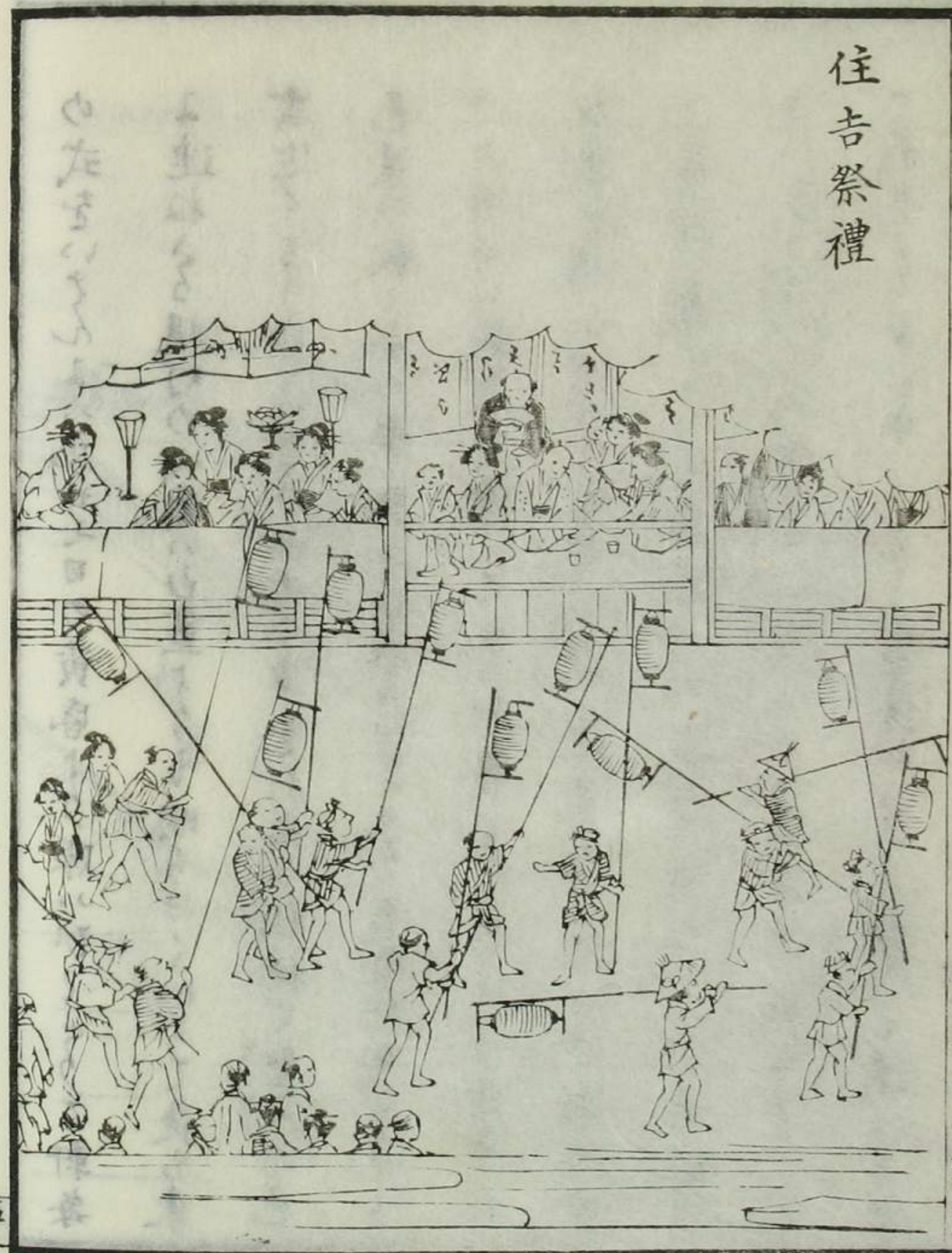


五

未 延 屋 敷 版



三十三
新開
遊樂
及

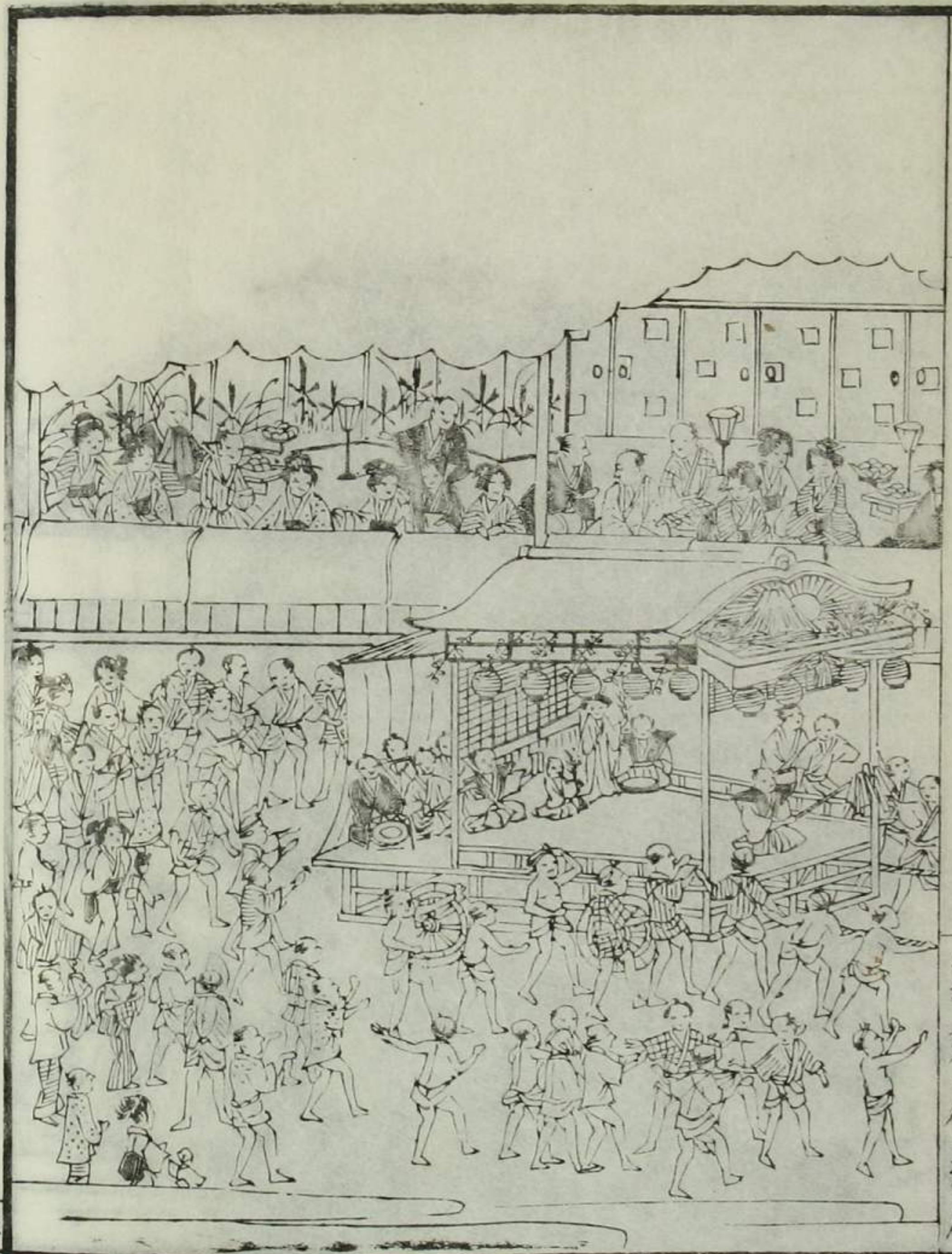


住吉祭禮

住吉祭禮

住吉祭禮
片

五



新屋痕

すーて爰ニ集参す境内廣一とよも尺寸の餘地なく
 酒舖肉店ハ軒を連ねて場ニ充ち菓子を鬻く声ハ終然
 とて間断を誠ニ壯麗の大祭とてをいふべけれ

稻荷社 本社の左ニ並み當社ハ元阿武郡須佐村ニ在セ一を万治年中今の地ニ遷以例祭ハ四月十六日此日來詣人尤群集す所ノ箇屋を

かけ哥舞伎人形を出は是を造りとのとよ

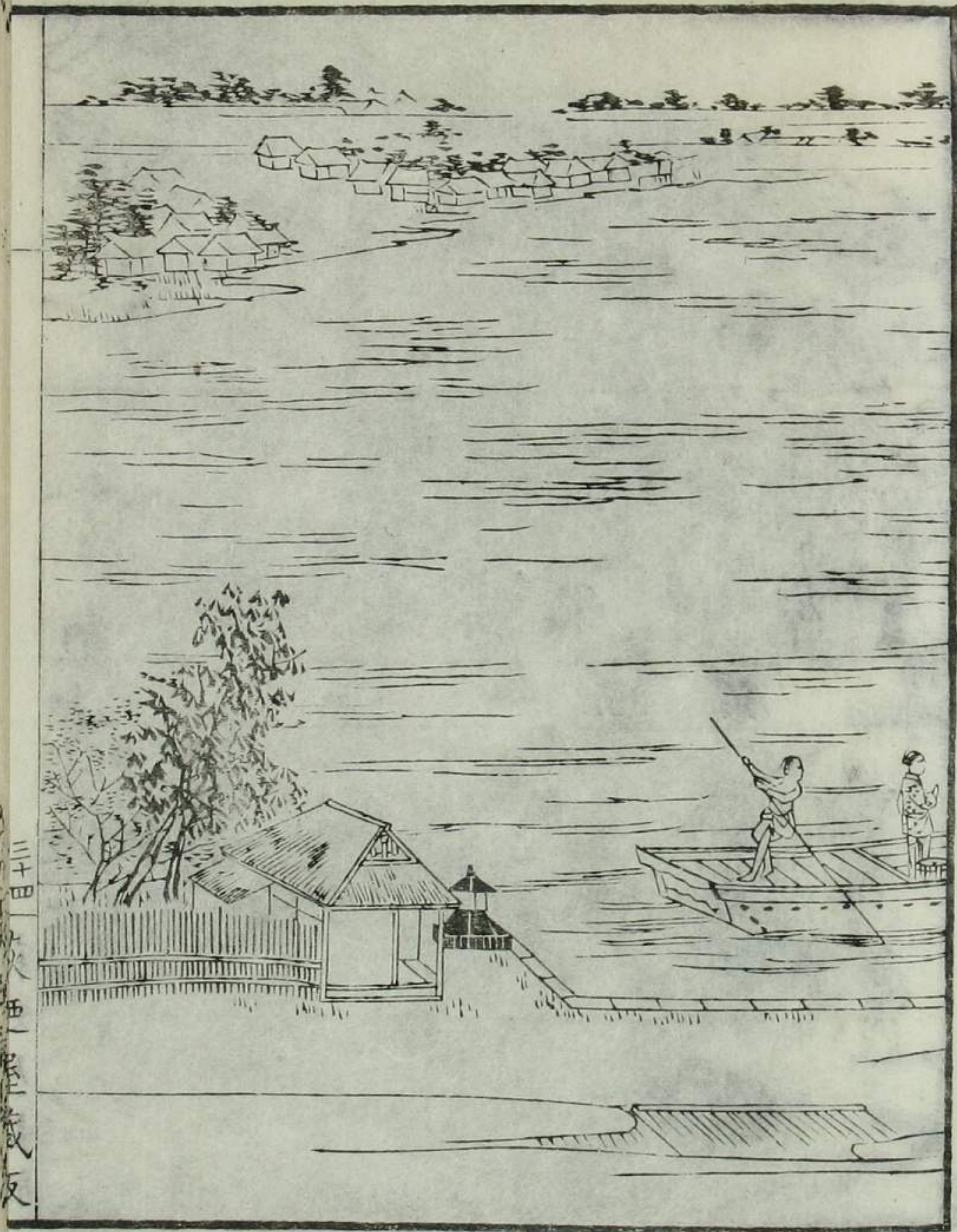
夷社 裏門の左ニあり元濱崎新町ニあり浦人信仰のよ一を當社内へ遷す

寶物 繪馬一枚 青雲公御寄進 同一枚 泰祖公御寄進

具足一領 島田孫介寄進

棟札畧 萬治元九月吉辰應舟主等求謹誌焉

裏 建立大願主松田忠兵衛並
 田原四郎左門 濱崎舟持中



三十四
大正
昭和
昭和
昭和



濱崎渡場

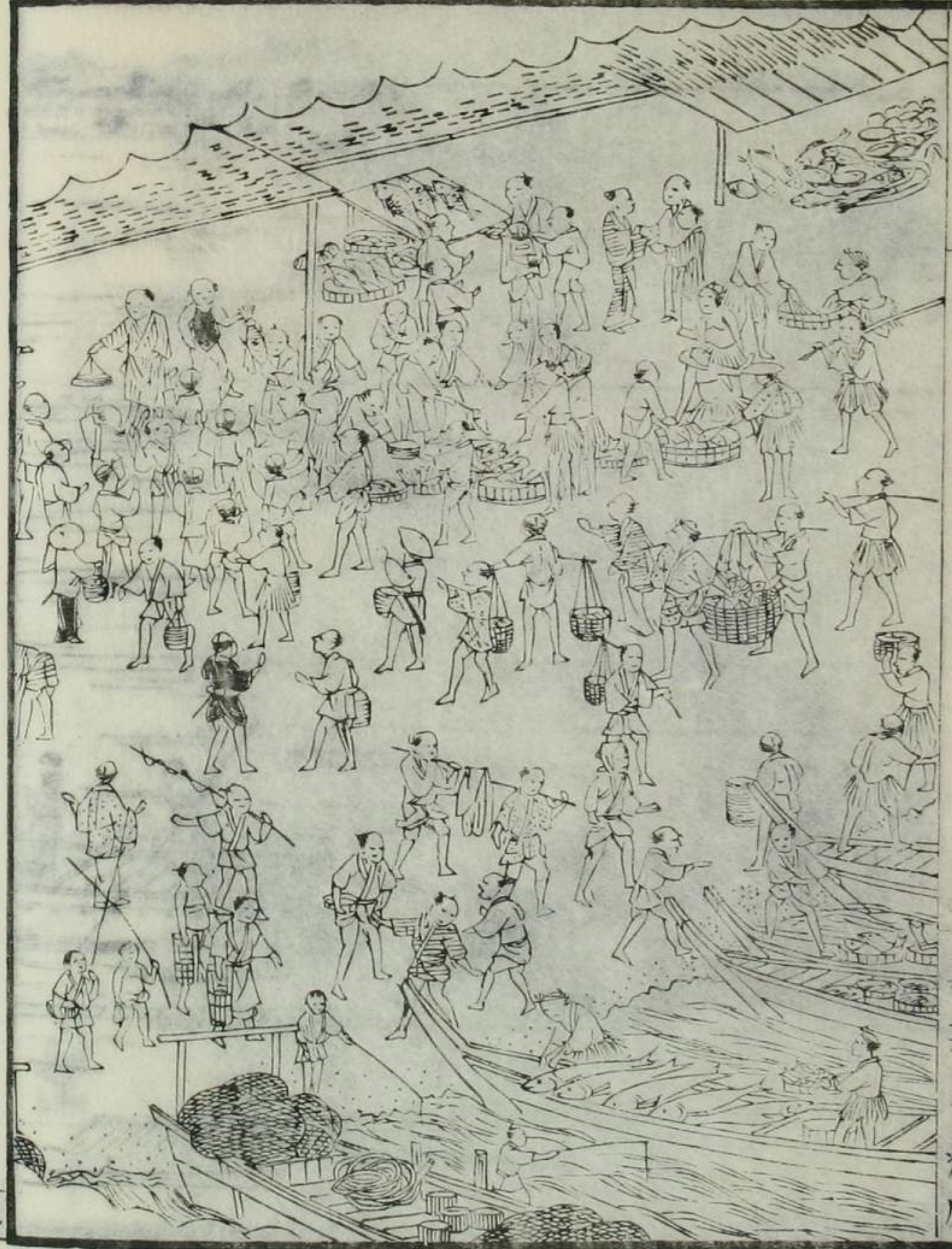
五

昭和
昭和
昭和
昭和

濱崎
魚迫場

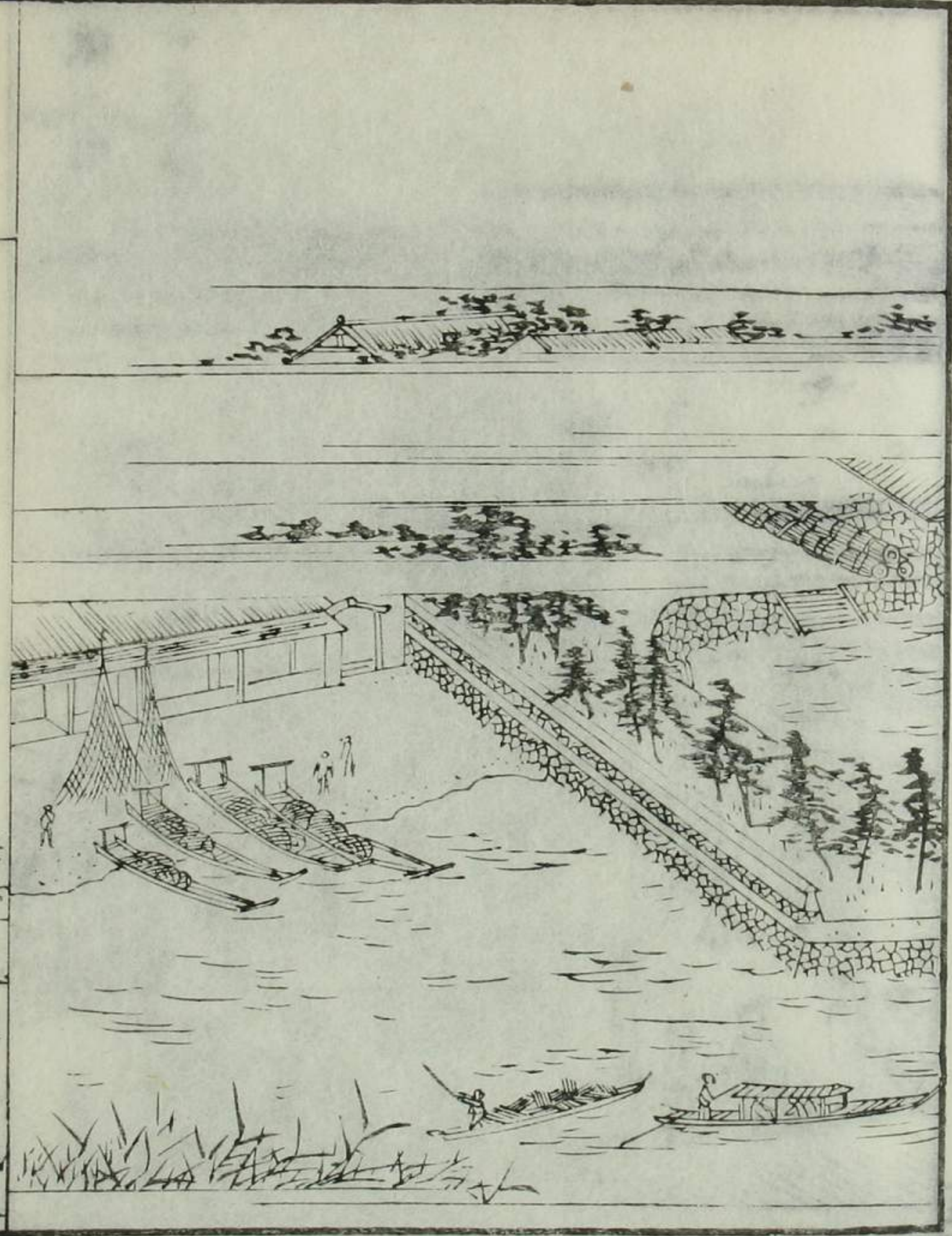


三十五
坂
屋
藏
版

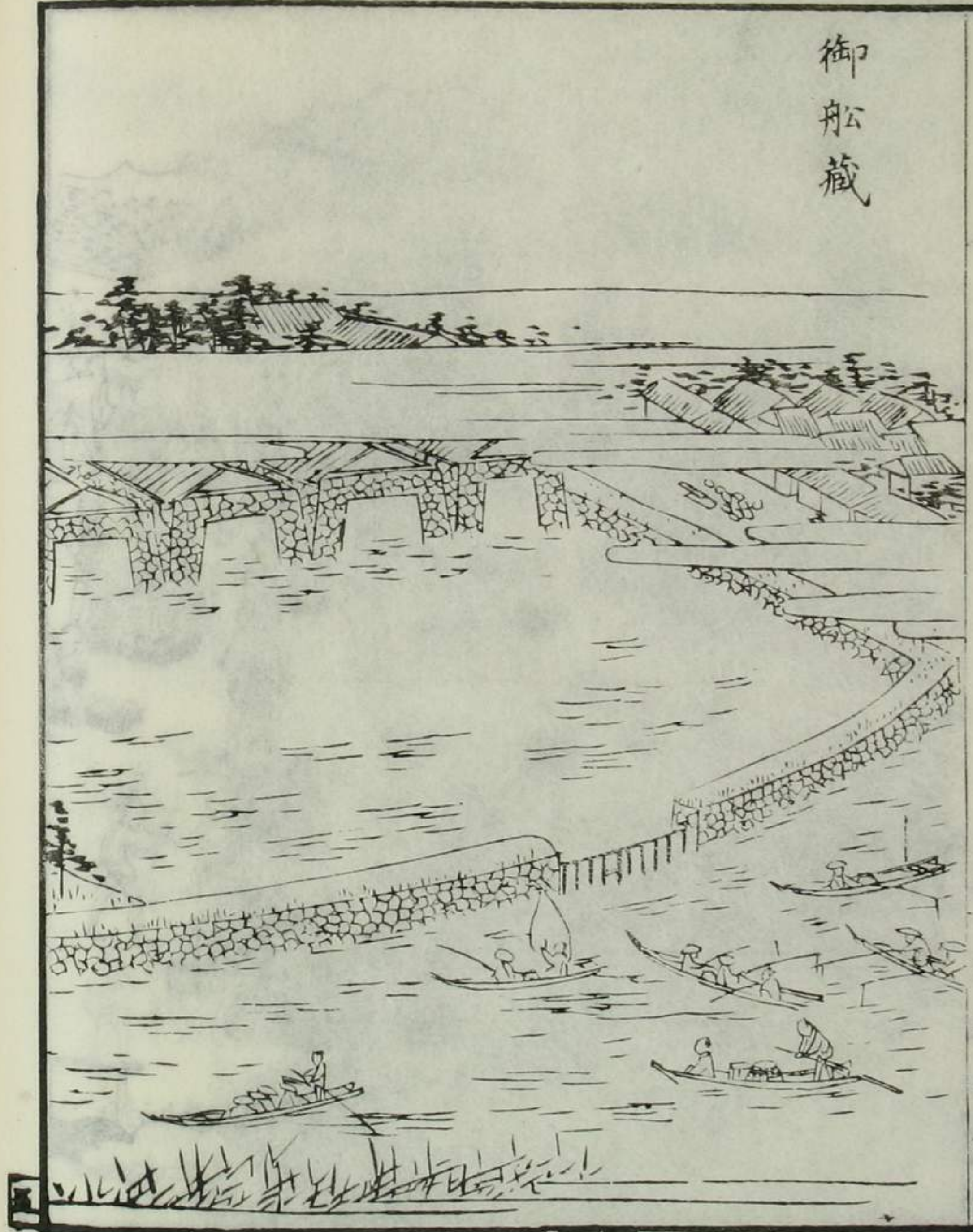


五

三
十
五
坂
屋
藏
版

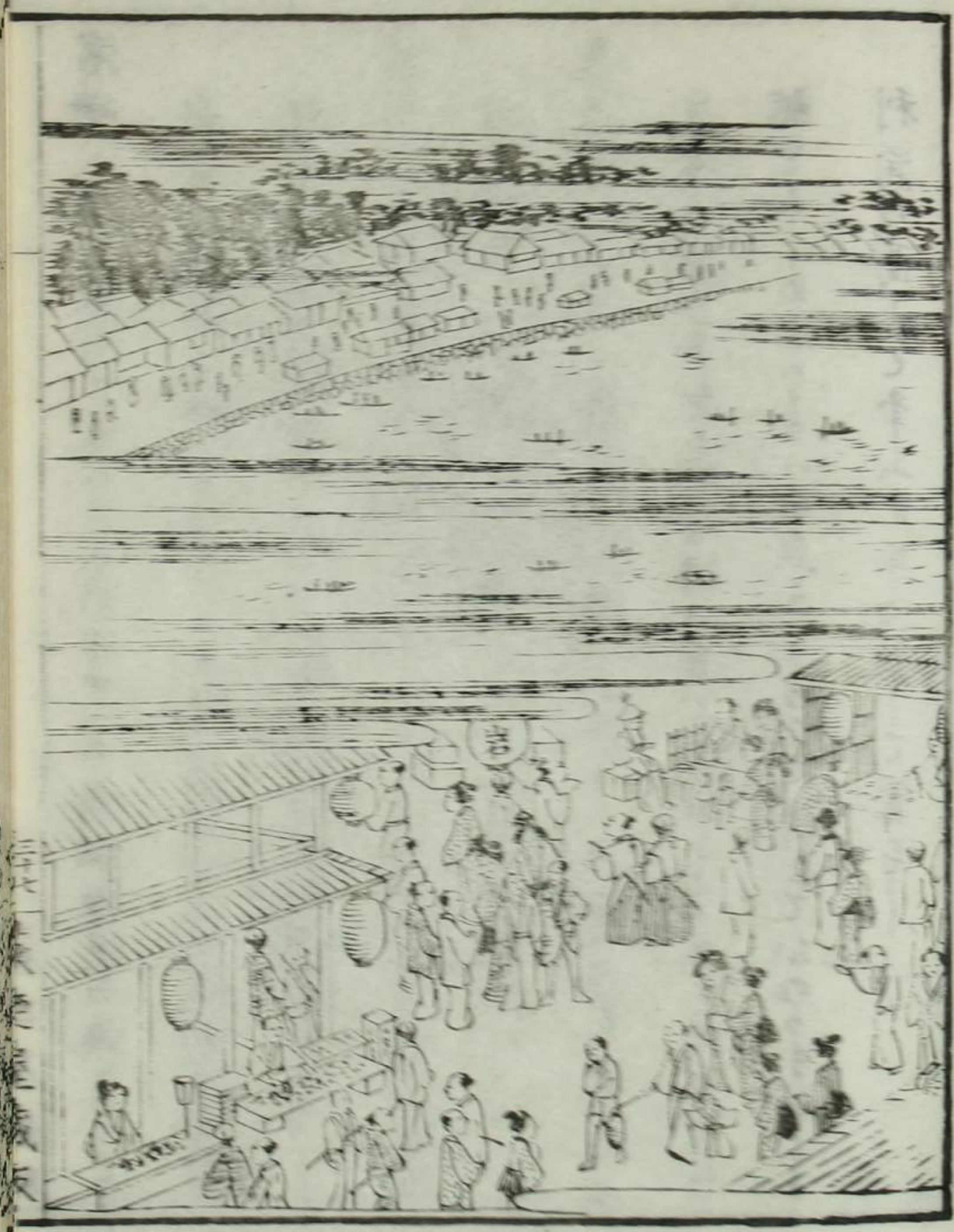


三十六
水
運
船
橋

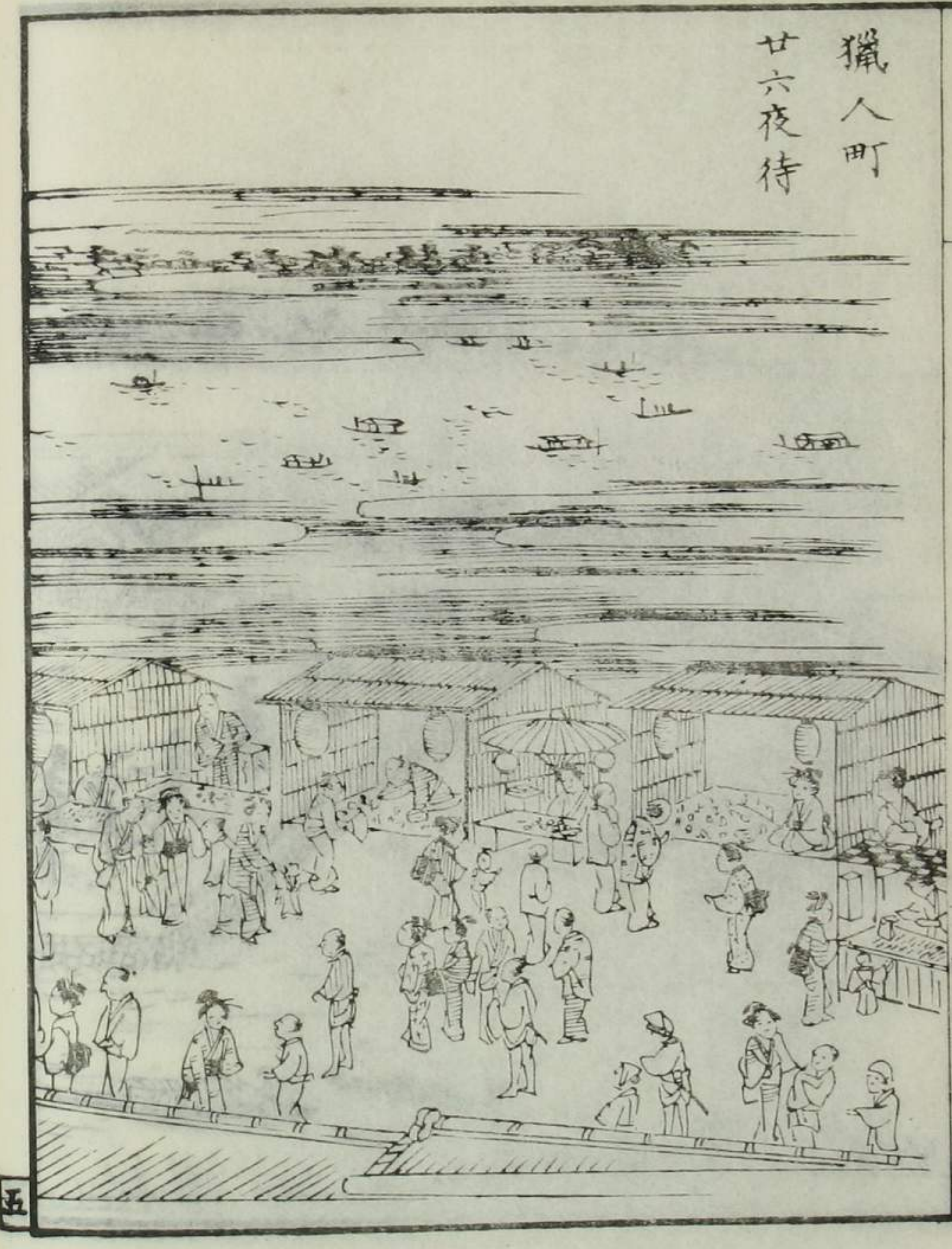


御
船
蔵

三
十
七
水
運
船
橋



獵人町
廿六夜待



永野屋

濱崎 松本大川の末をいふ萩市中への商船運送の湊りて

出入の船日毎賑へる所なりて濱崎町ハ酒屋肴屋米屋

材木屋其外諸國賈舟諸郡飛脚寺の問屋の住居する所ニ

渡場 同所ニ在り世ニ鶴江の渡りとのまひるるをせともを

濱崎渡りハ舟場ニ御番所御高札等を建置れり

魚迫場 同所ニ在り此地ハ遠近の浦より鮮魚を運漕して

日毎魚の市を立て四時一日も絶ゆることなし大なるを

鯨をいれぬ小なるハ白魚といふまで持出たのりまふ

利潤の高下を争ふ声耳に徹して驚き

獵人町廿六夜 七月廿六日の夜二十六夜といひて獵人町新町

邊にて家々巷々屋臺を構へ阿弥陀佛を置きて金打た

き念佛急らりて終り夜を徹す市中此貴賤タラしより

出て賑ふことかきりあり

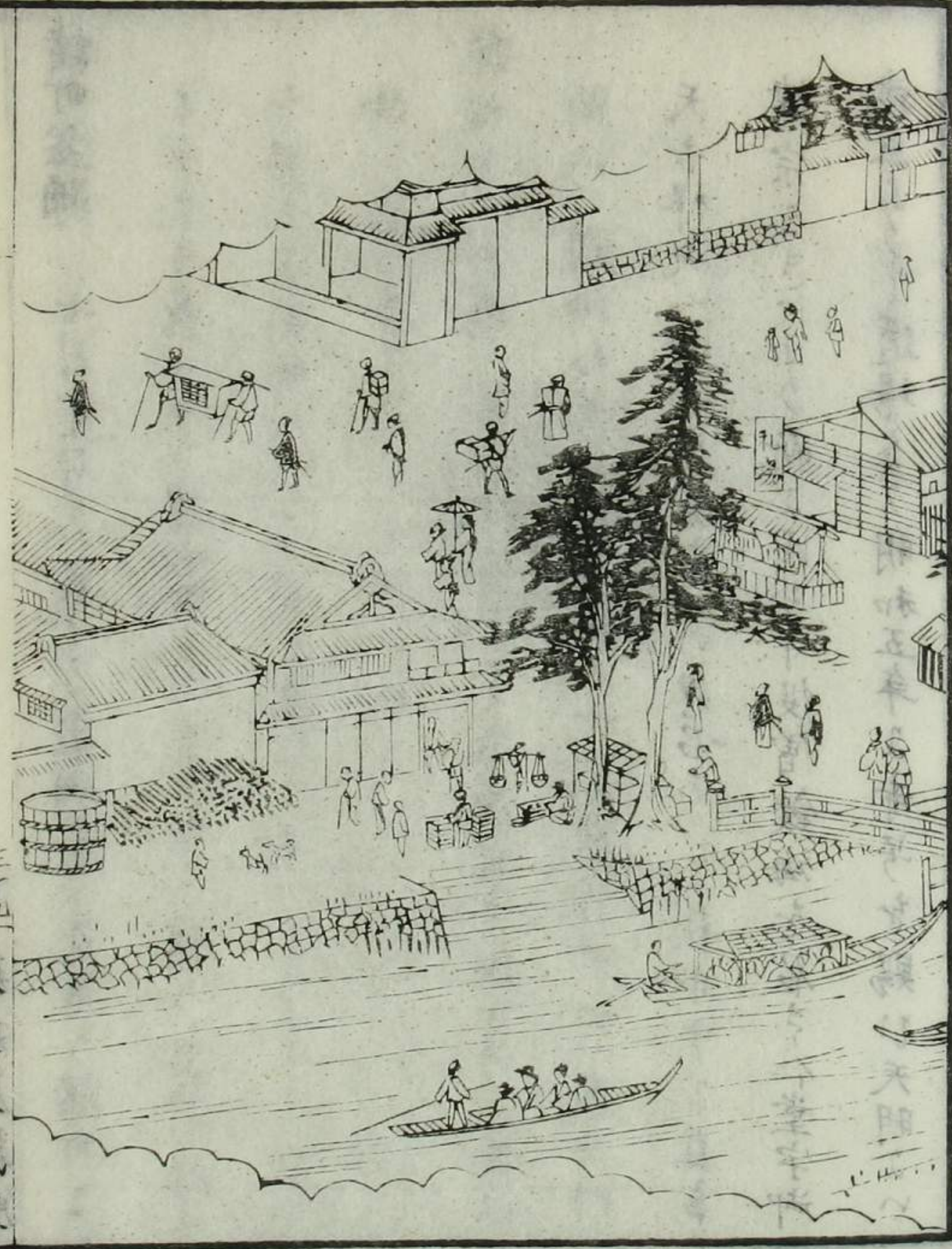
萩津江暮雪 古八景の一にて渡場の所をいふ

札場 東田町にて唐通と新道にありて所ニあり當所を

御兩國中八達里數の始として御高札を建おれり昔

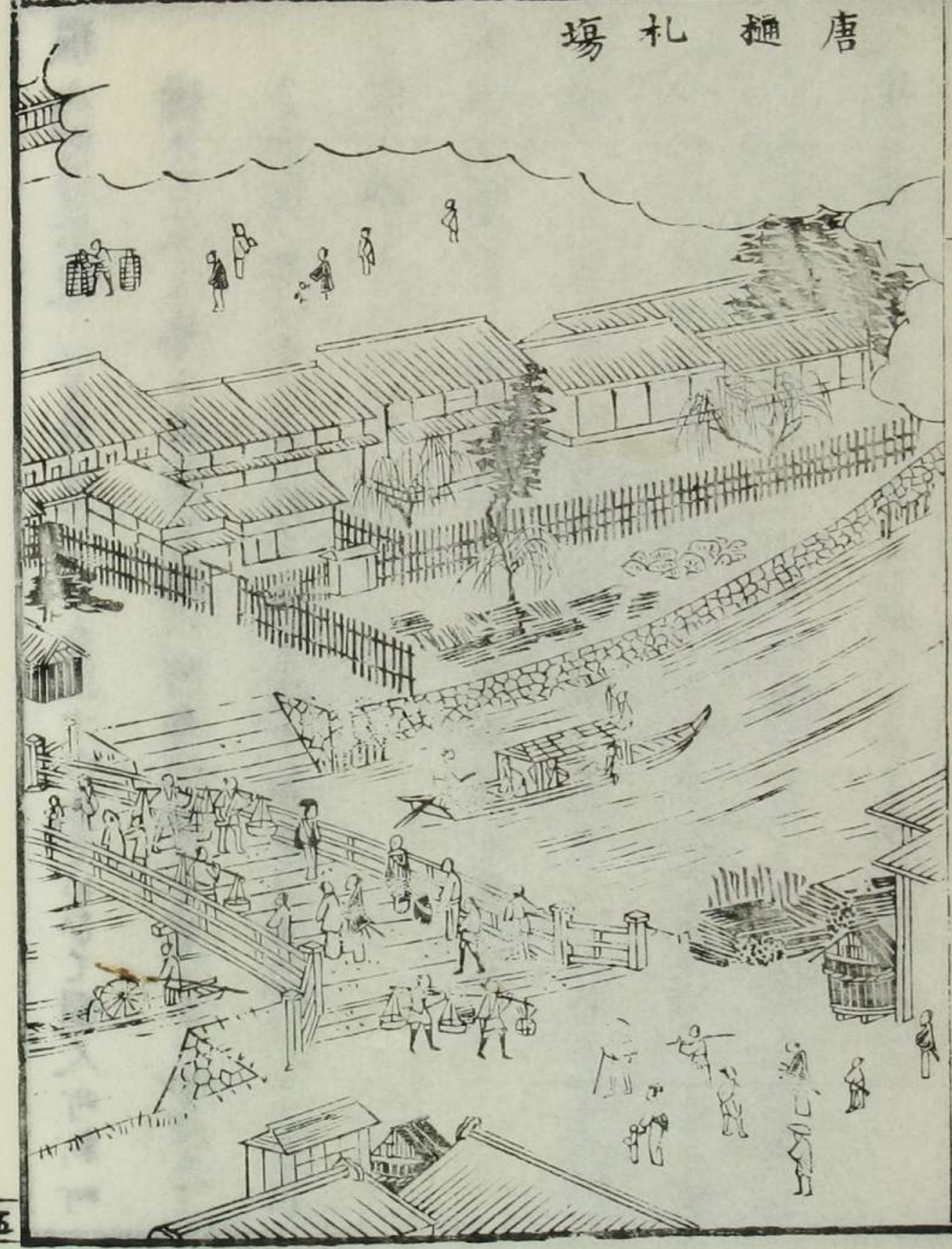
に南片河町の所にて御堀の端ニありといふ享保二

年土原新道出来の節當所へうつされりてを



三十九
水
通
江
城
反

唐 翻 札 場



三
十
九
水
通
江
城
反

五

一 新 建 屋 葺 成

諸町盆踊 七月十六日の夜より盆踊とて夜更け諸町より

て少きも長くも男女打ちまいておのう様より遊んで踊る
を習とす見物の上下老若お集ひて夜のもろるをも知り
終る鳥の音に誘われて漸く歸りたり

龍福寺 古義の真言律宗よりて防府官市國分寺に属し
開山の鏝海和尚より本尊ハ十一面觀音脇士ハ毘沙門
天吉祥天に當寺ハ英雲公の思召ありて萩市中に真言
律宗をきにより新に國分寺役僧鏝海を召され堂宇御
建立ありし道場より明和五年に寺号を賜ひ天明とい

五

くろくで落成すと云

聖天堂 天神社

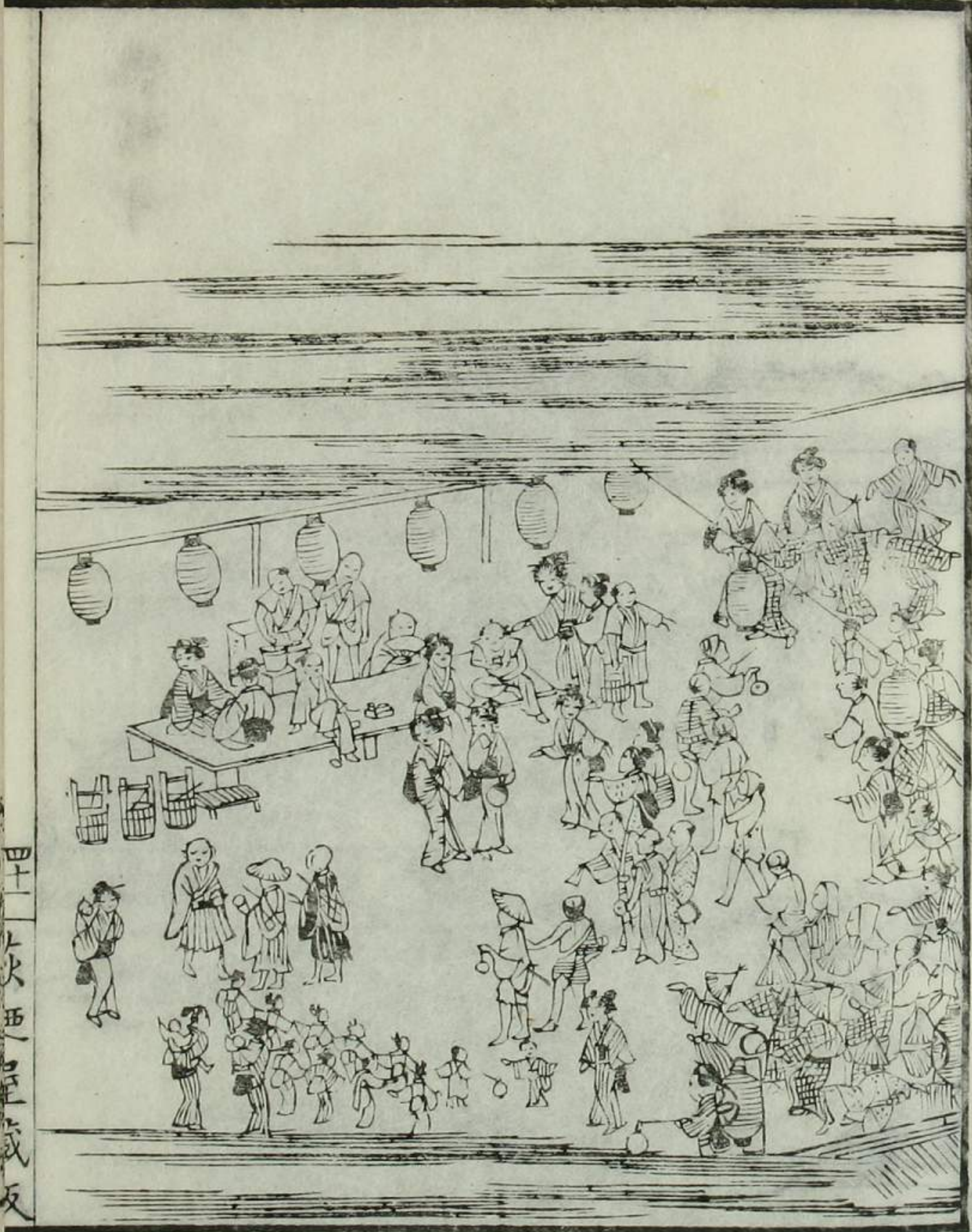
寶物 鎌倉権五郎景政の太刀一振 弘法大師の書

巨溪山稱名院 同所の東にあり浄土宗よりて常念寺に属
す開山の常念寺七世長譽求公和尚元禄六年の州創より
木島何某建立とより本尊ハ阿弥陀脇立ハ觀音勢至あり
寺地ハ元秋里氏屋敷と云

十王堂 間魔法王 宗印の作 万間建立

寶塔山神宮寺吉祥密院 御許町中程東側にあり古義の真

四十一 大 正 十 年 丙 午 夏 月 記



四十一
火五
巨
成
反

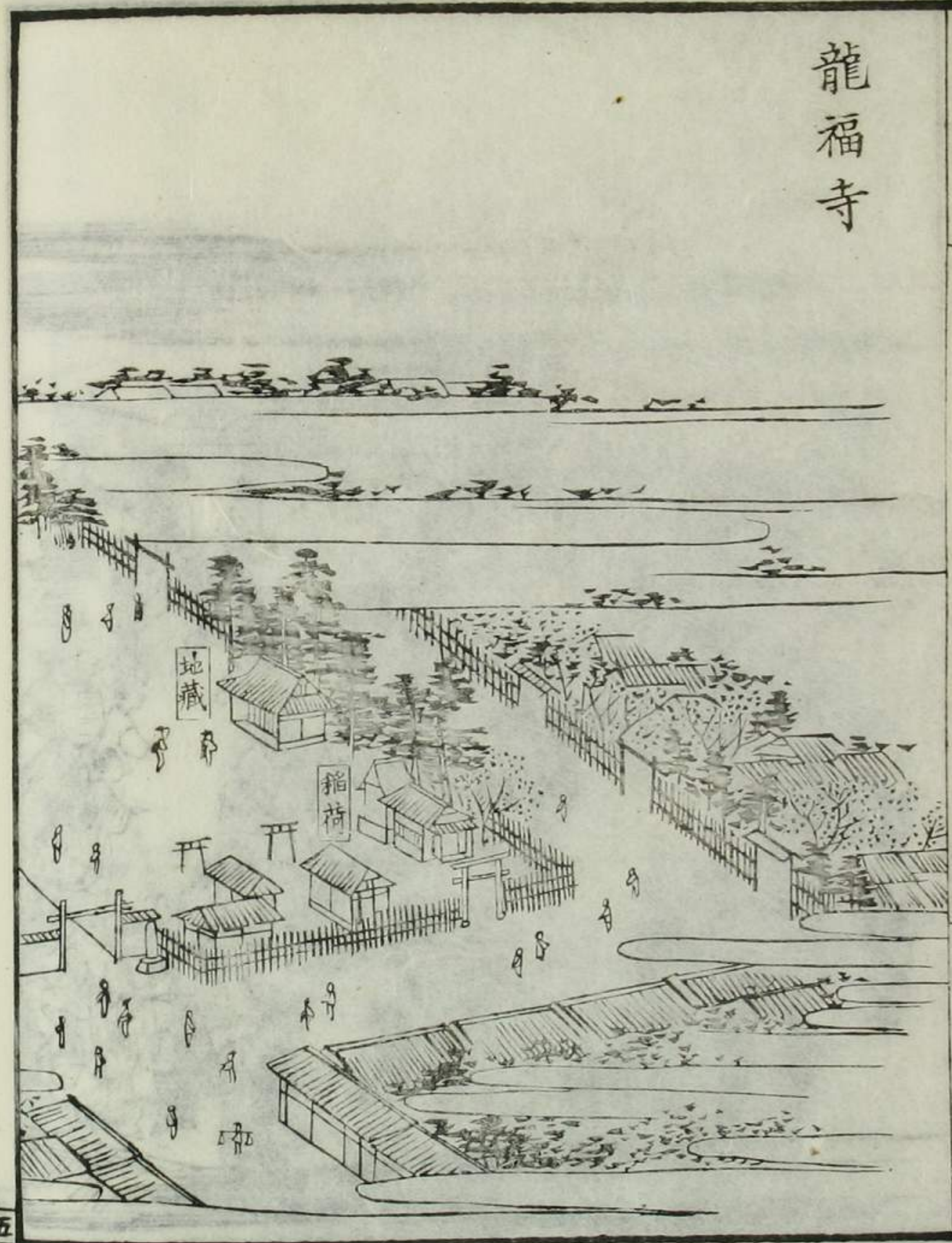
諸町
盆踊



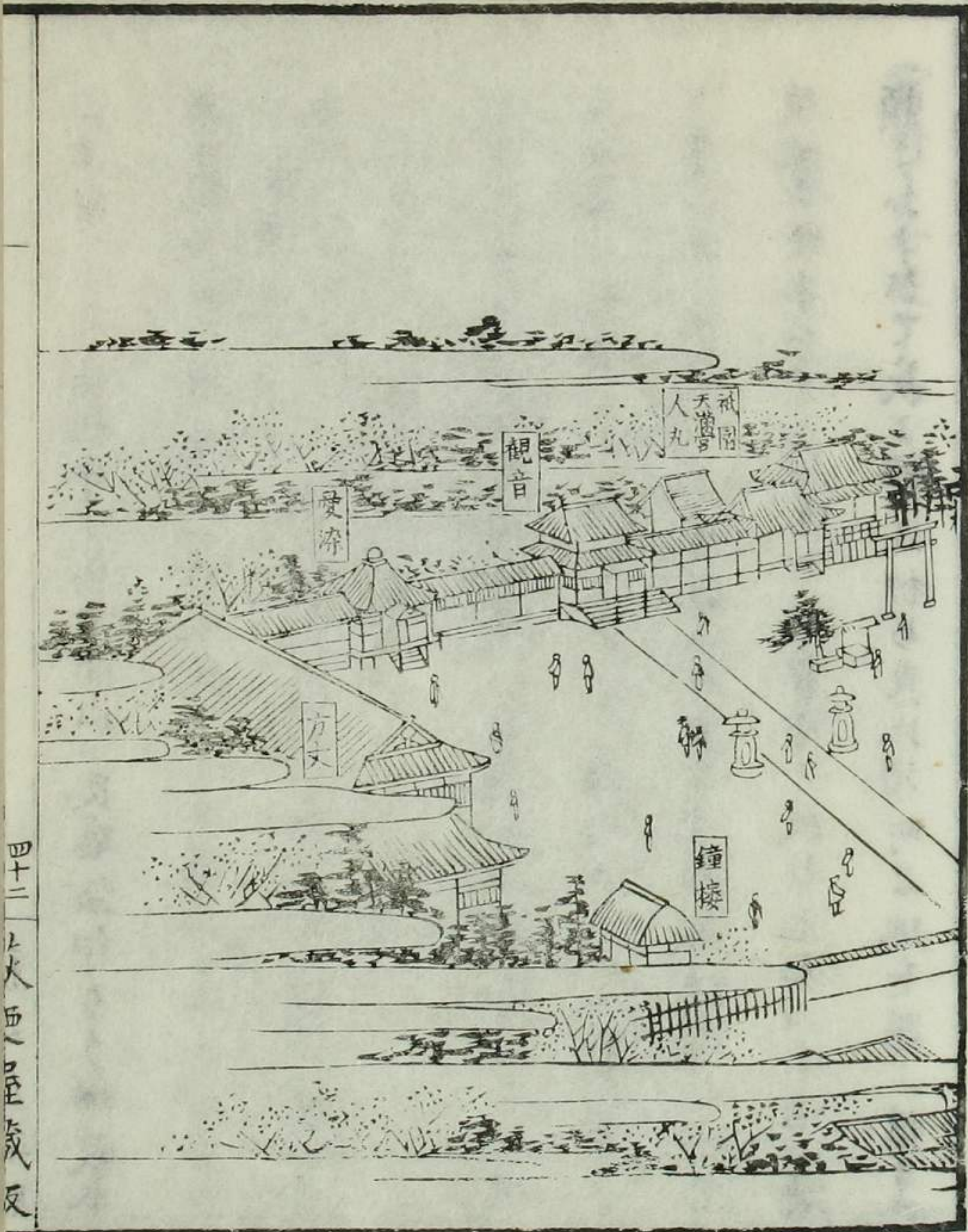
新
延
屋
新
成

五

龍福寺



寺
交
屋
積
成



四
十
二
大
五
日
屋
積
成
反

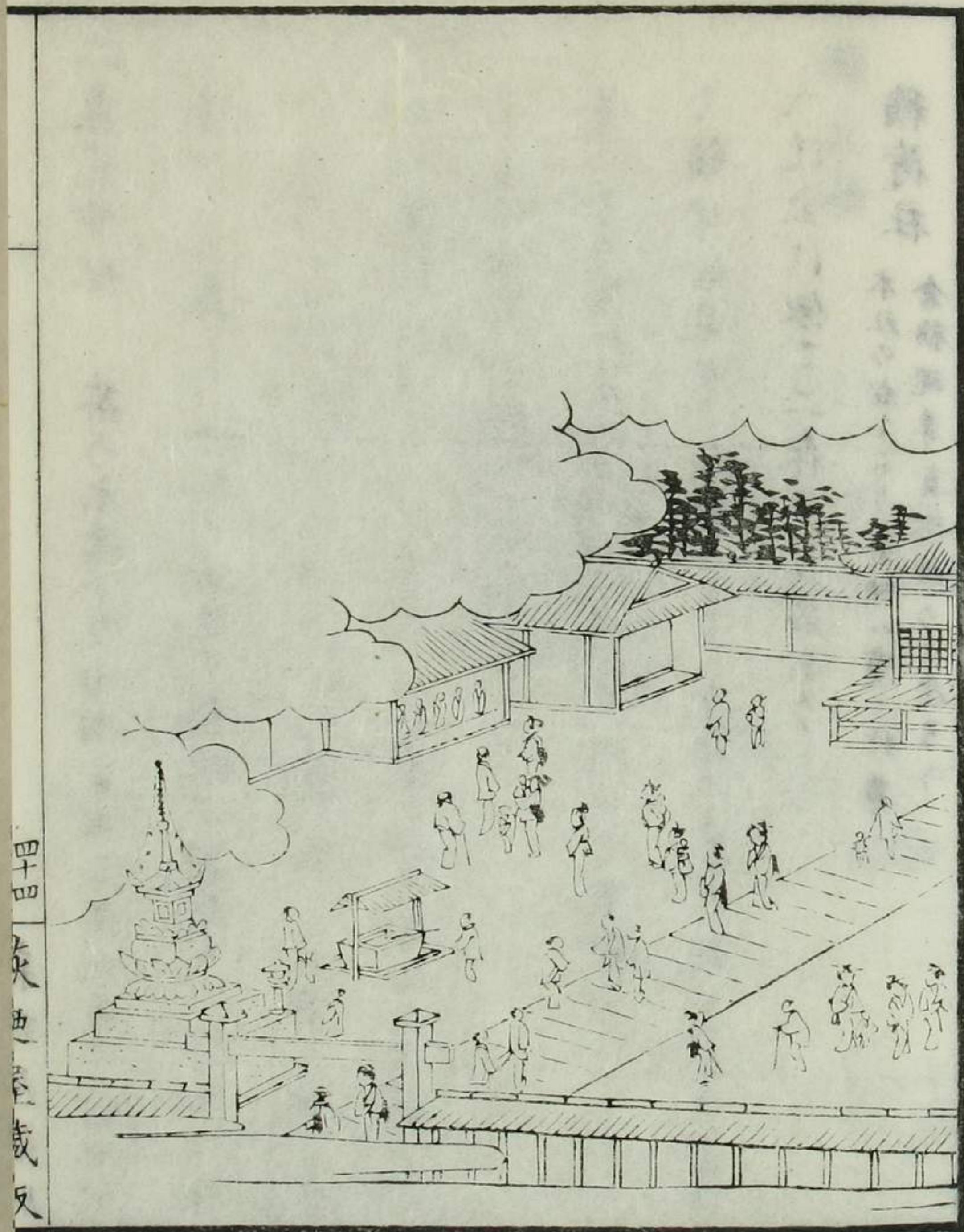
言律宗より満願寺に属す開山の良盛法印より佛殿本
尊毘沙門天の尊像ハ一の坂銀山より掘出す所の金像ニ
仏工運慶の作或ハ昆首
羯尸の作ともいへり 相殿薬師佛の一体ハ石州銀山薬師寺
の本尊よりといふ

本堂本尊子安観世音菩薩ハ聖徳太子御作より相傳
ふ當寺ハ往古石州銀山ありて薬師寺といふ古刹あり
り慶長年間防州一の坂銀山出来の時御祈願所として
彼地ニ迁されり則号を神宮寺と改む元和以来銀山廢
類ニおよひて萩ニ轉に初め惠比須町ニ地を賜ふ後ま

當所ニ再建すと云

観音縁起のありまゝを載す

石州銀山出現の大慈大悲の尊像浮屠の僧と化し薬
師寺六世の住中興光盛阿闍梨ニ告げ玉く我日比
婦女の産苦を矜む依て貴僧に易産の符を授くへ
かかしくは邑里の婦人ニ與へるといひ捨て去り玉ふ夫よ
り近郷の人民信心まれば其功著るゝ号けて愛敬子安
観音と稱し奉る



四十四
大正
五
歳
反



吉祥院
世に子安観音
と称す

菅内
山
音

五

新
屋
藏
庫

新築屋敷

二森荒神社 茶の木原より田畑は出る角にあり當地を

号けて二森といふ社司吉屋氏奉祀す吉屋氏の昔春日社

の大宮司ありととり其何々として今も文書を傳ふ又

大内家判物等もあり慶長十二年迄ハ春日社主職あり

一由云傳ふ例祭ハ九月十日なり

昔ハ下土原波戸場 井原波戸場といふ 井原氏下屋敷の内よりあり

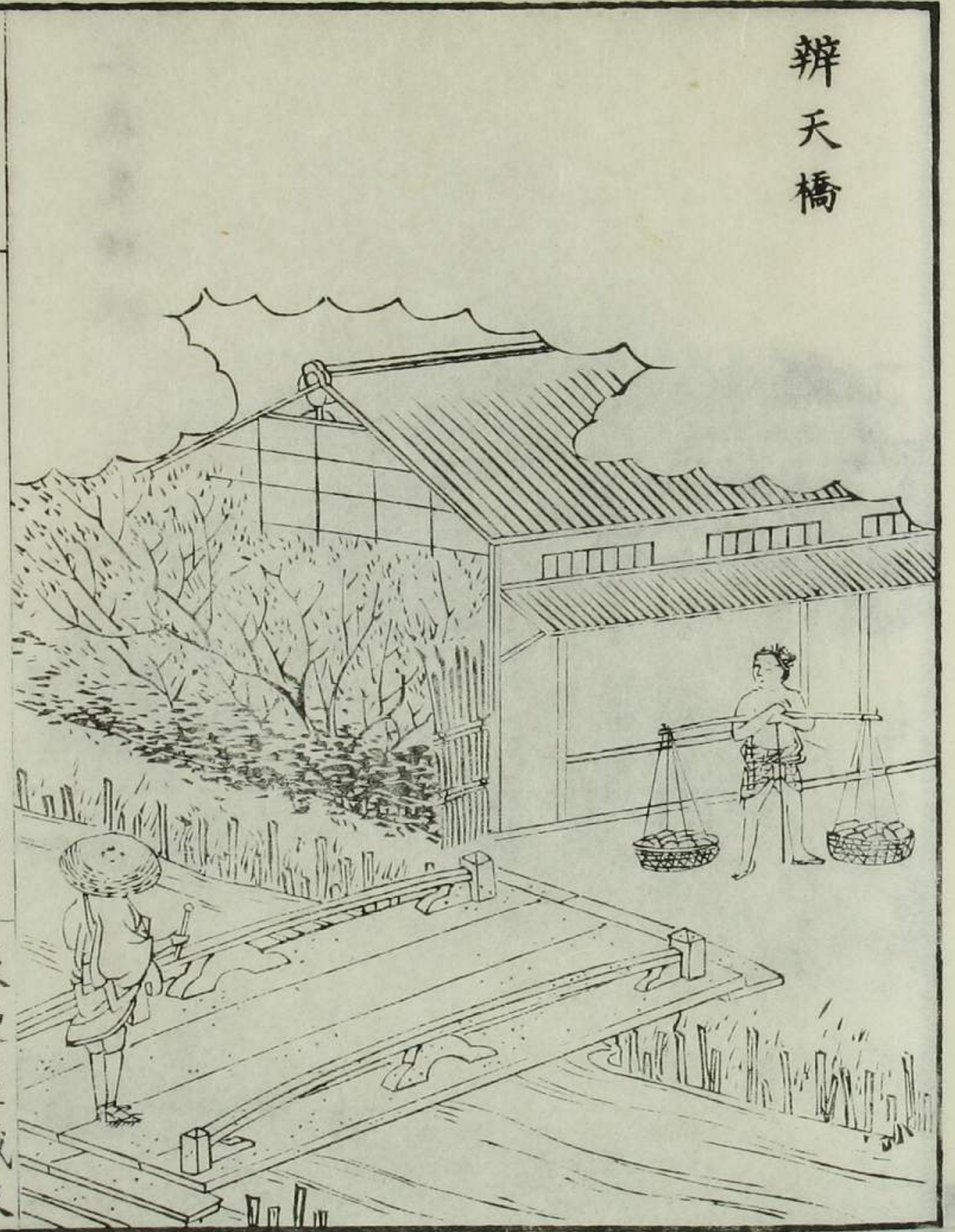
て鎮守妙見社と相殿ありをゆふありて社を分て當所

へ遷坐に依て二森といふ名あり

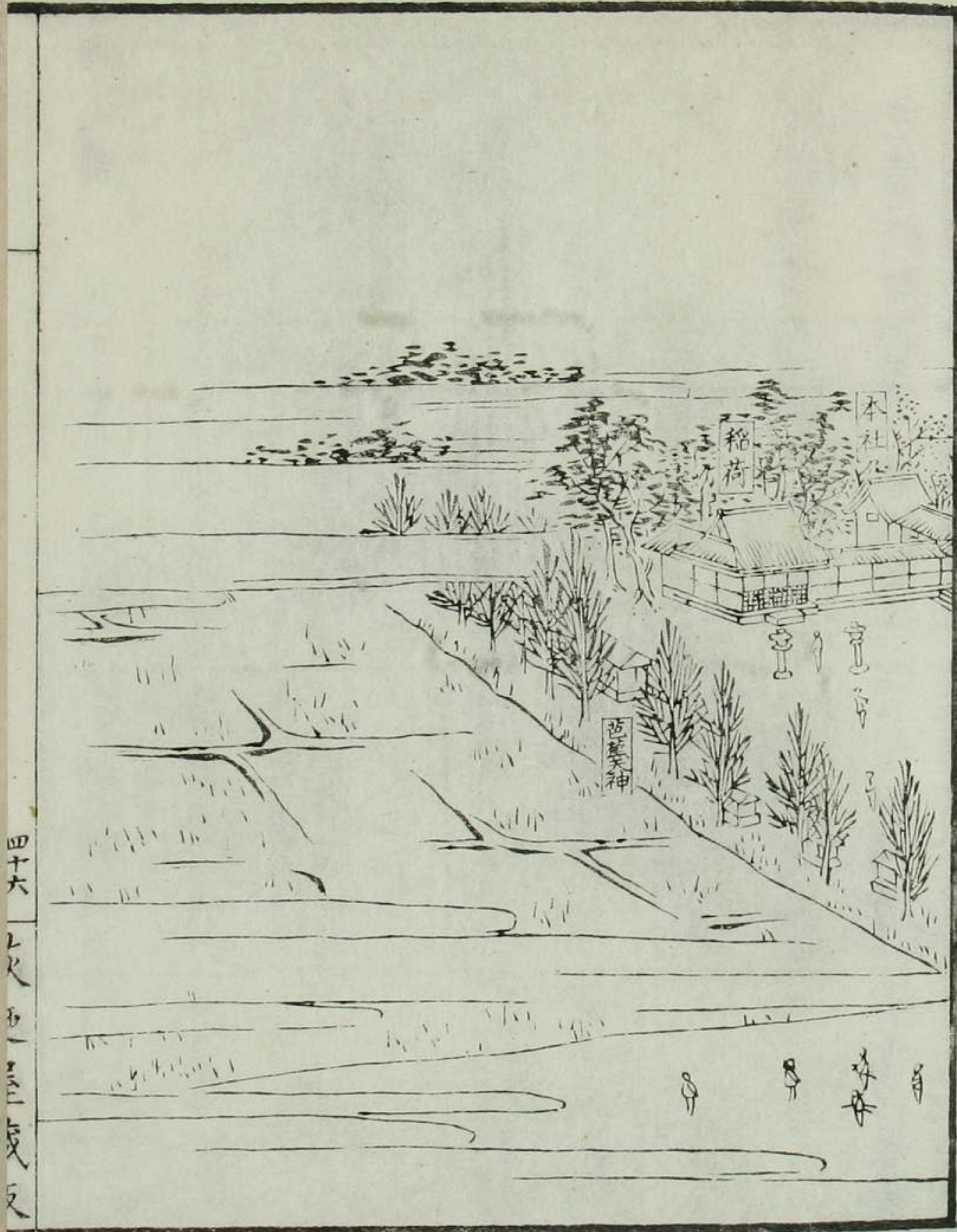
稻荷社

本社の右よりあり祭神ハ瓊杵尊倉稻魂尊真狐神の三座なり

辨天橋



四十五ノ火也屋敷反



四十六
上
五
三
度
反



二森荒神社

五

三
五
三
度
反

辨天橋

八丁もちよて東へゆくつめ此所あり

此あり八丁川島と云

むろー當所は連貞といふ尼の菴室あり彼う法号を以ひ

謬てべんてんといひ傳ふといと

都て家名をとりて所の名よりいふはもと多し熊谷丁雜賀下り

黒沢繩手ま
と歴然たり

指月山善福寺 川島あり臨濟派の古刹にて教五箇

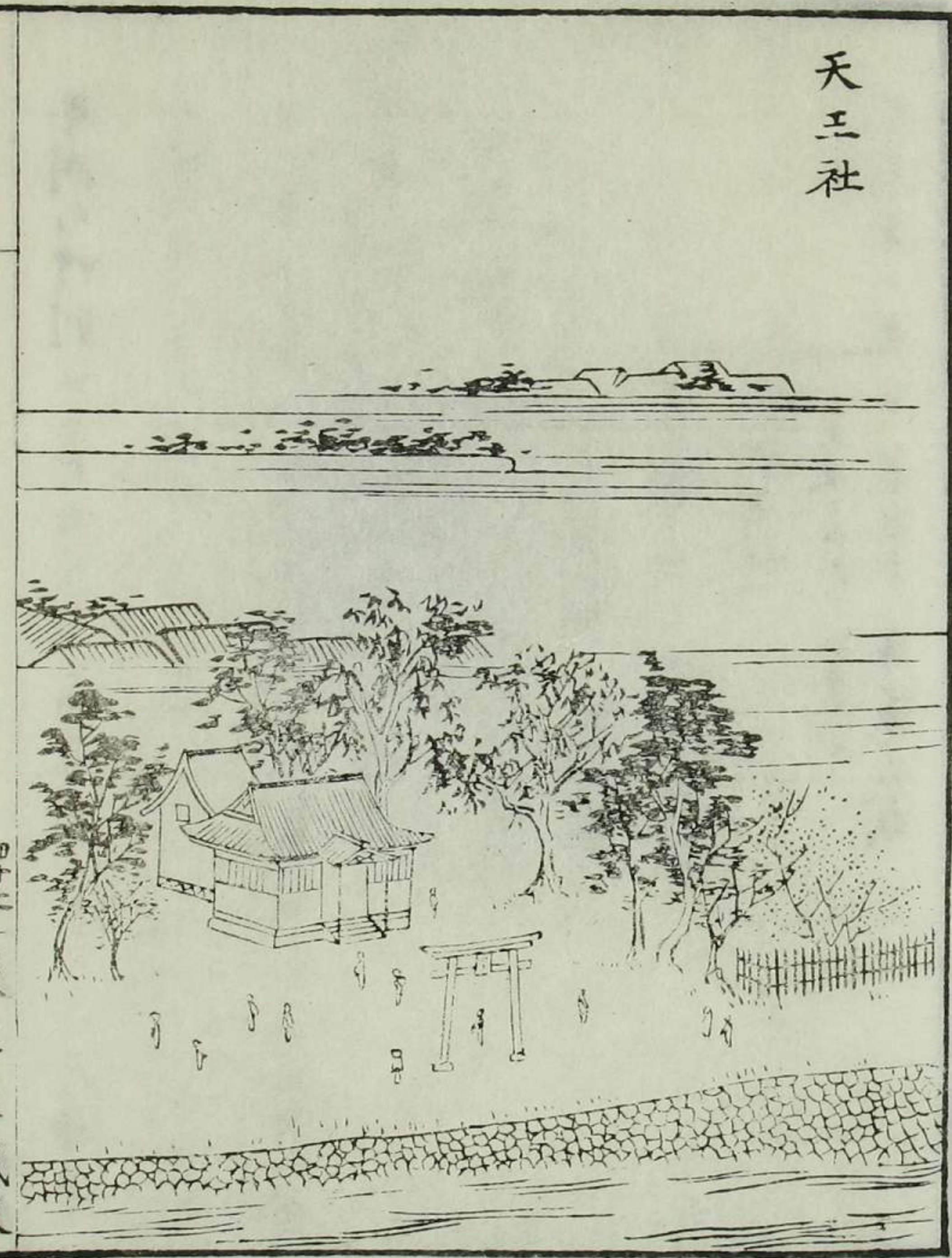
寺の一なりをめ曹洞派の禅宗なりと云中比宗風を

轉して今天樹院に属に昔ハ京都東福寺の末院なりと云開山ハ前住建長

翔天源騮和尚にて中興ハ真如桂本元鹵和尚なり

本尊釈迦如来ハ安阿弥の作といふ相傳ふ當寺ハ永享

天王社



年間の艸創るり大内家代この菩提所とて今に判物等
を存せりいりへハ指月山の麓にあり

御城山を指
月山といふ ゆゑよ

此山号を稱す御城造營の時當地を賜ひて再創すと云

地藏堂

鐘樓の右に並ぶ本尊地藏并ハ行基の作
りて大内義隆の尊崇せしむるなり

大内家判物

と云ふ所武郡新津浦

内を丁地事不令寄附

吾海もや云早子寺務

し於め件

天文十九年二月十日

右六年大藏

涅槃像一幅 宅ノ證賀筆

天王社 川島の東詰土手の上帯虹灣を望みて南に向ふ

市杵島大明神社 橋本大橋の東川島の土手あり川を

望みて南に向ふ

祭神 市杵島姫 勸請年月詳るるに例祭ハ六月二十日

あり

八江菰名所圖画卷五終

天... 八江菰名所圖画卷五終

